

平成28年度
県民アンケート調査
報告書

<概要版>

平成28年11月

奈良県

— 目 次 —

第1章 調査の実施概要	1
1 調査の目的	1
2 調査項目	1
3 調査の設計	1
4 調査票の配付・回収の状況	1
第2章 調査結果の分析	3
I 生活全般に関すること	3
I-1 現在の暮らし向きの実感	3
I-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
I-3 1年前と比較した暮らし向きの実感が変化した理由	5
I-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	7
I-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	8
I-6 奈良県の住みやすさの評価	9
I-7 将来の奈良県での定住意向	10
I-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由	11
II 生活に関する重要度・満足度について	13
III～XI 県民の生活に関する意識やニーズについて	21
III 奈良県への愛着について	21
IV 産業構造の改革について	22
V 観光振興について	25
VI 農林業の振興について	26
VII 健康づくりの推進について	29
VIII スポーツ振興について	30
IX 医療の充実について	32
X 子育て支援・結婚について	36
XI 文化振興について	38
XII 回答者に関すること	40

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的

身近な暮らしに関する事柄についての重要度や満足度のほか、「産業構造の改革」や「医療の充実」等のテーマについて県民の皆さまの意識やニーズを把握し、今後の県政運営に役立てることを目的に、今年度もアンケート調査を実施しました。

2 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「産業構造の改革」、「医療の充実」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3 調査の設計

- ◇調査地域：奈良県全域
- ◇調査対象：県内在住の満20歳以上の男女・個人
- ◇調査標本数：5,000人
- ◇標本抽出法：層化二段無作為抽出法
- ◇調査方法：郵送配付・郵送回収
- ◇調査時期：平成28年5月20日（金）～6月8日（水）

4 調査票の配付・回収の状況

- ◇調査票配付件数：5,000件
- ◇有効回答数（率）：2,667件（53.3%）

◆ライフステージの区分と区分の設定条件及び実有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
若者	20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者	306	11.5%
夫婦	20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者	292	10.9%
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	239	9.0%
教育期前期	小・中学生・高校生・高専生の子どもがいる世帯の回答者	484	18.1%
教育期後期	専門学校生・短大生・予備校生・大学生（院生）の子どもがいる世帯の回答者	256	9.6%
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	74	2.8%
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	359	13.5%
非該当又は無回答		889	33.3%
合計※注		2,899	-
有効回答数		2,667	100.0%

（注）ライフステージ区分は、「年齢」「世帯構成」「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。
2人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数（2,667件）と一致しない。

◆旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び実有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
旧住民（奈良県にずっと住んでいる人）	生まれたときから奈良県に住んでいる回答者	1,385	51.9%
新住民（奈良県に新しくきた人）	生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者	1,262	47.3%
非該当又は無回答		20	0.7%
合計		2,667	100.0%

◆奈良での就労区分と区分の設定条件及び実有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
奈良県内で働いている人	就労場所が奈良県内の回答者	1,178	44.2%
奈良県外で働いている人	就労場所が奈良県外の回答者	449	16.8%
非該当又は無回答		1,040	39.0%
合計		2,667	100.0%

【地域の区分】



区分名	該当市町村名	有効回答数	構成比
地域1 (北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,271	47.7%
地域2 (西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	252	9.4%
地域3 (中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	659	24.7%
地域4 (東部)	桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村	209	7.8%
地域5 (南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	181	6.8%
地域6 (南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	95	3.6%
合計		2,667	100.0%

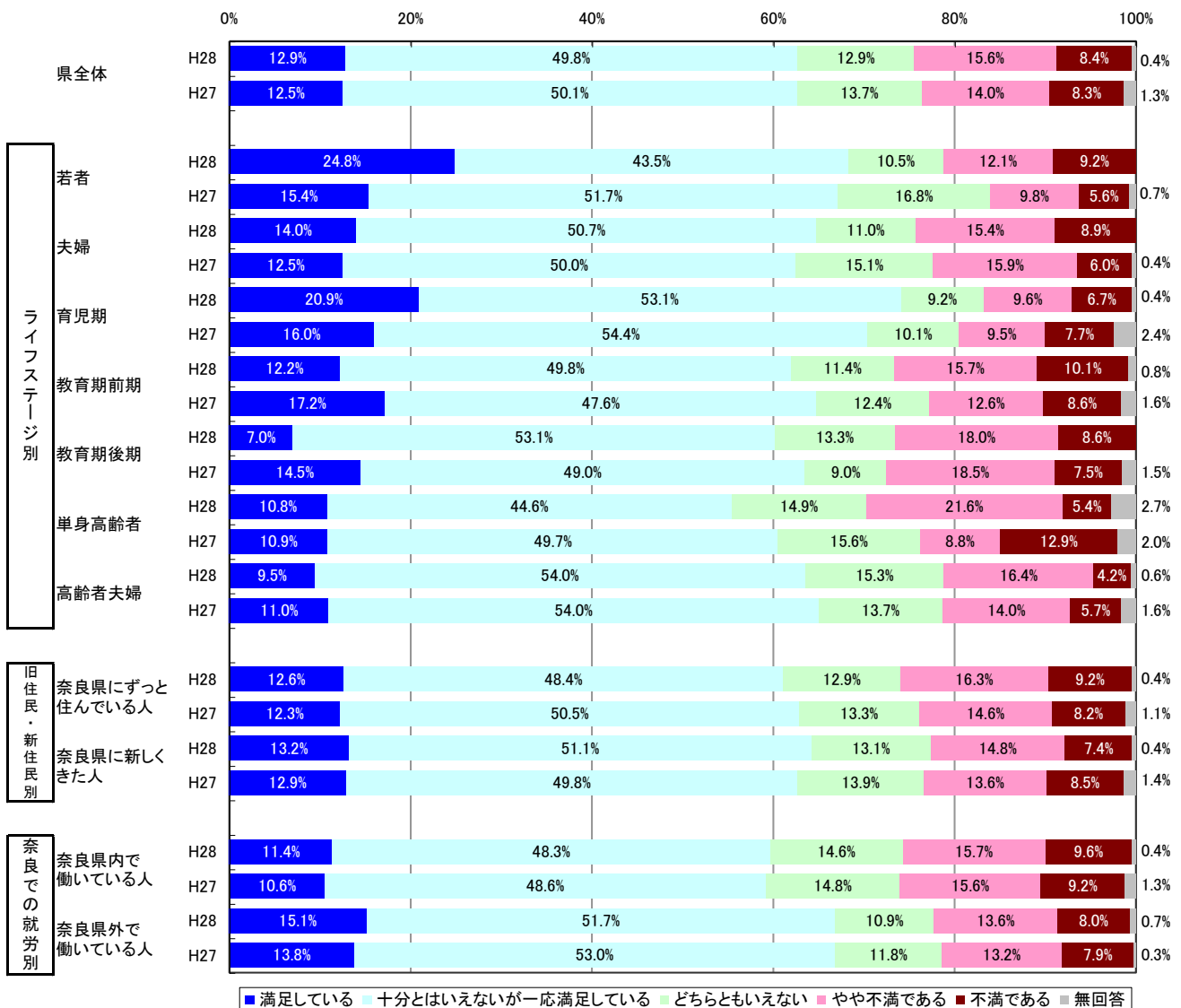
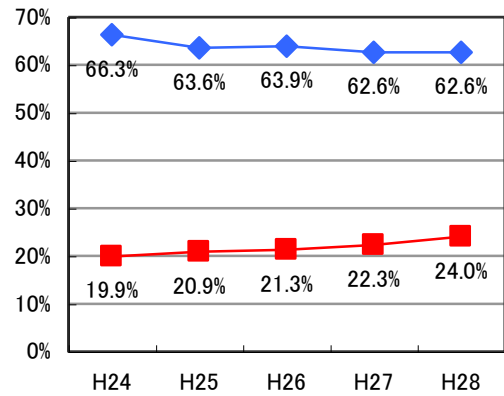
第2章 調査結果の分析

I 生活全般に関すること

I-1 現在の暮らし向きの実感（問1）

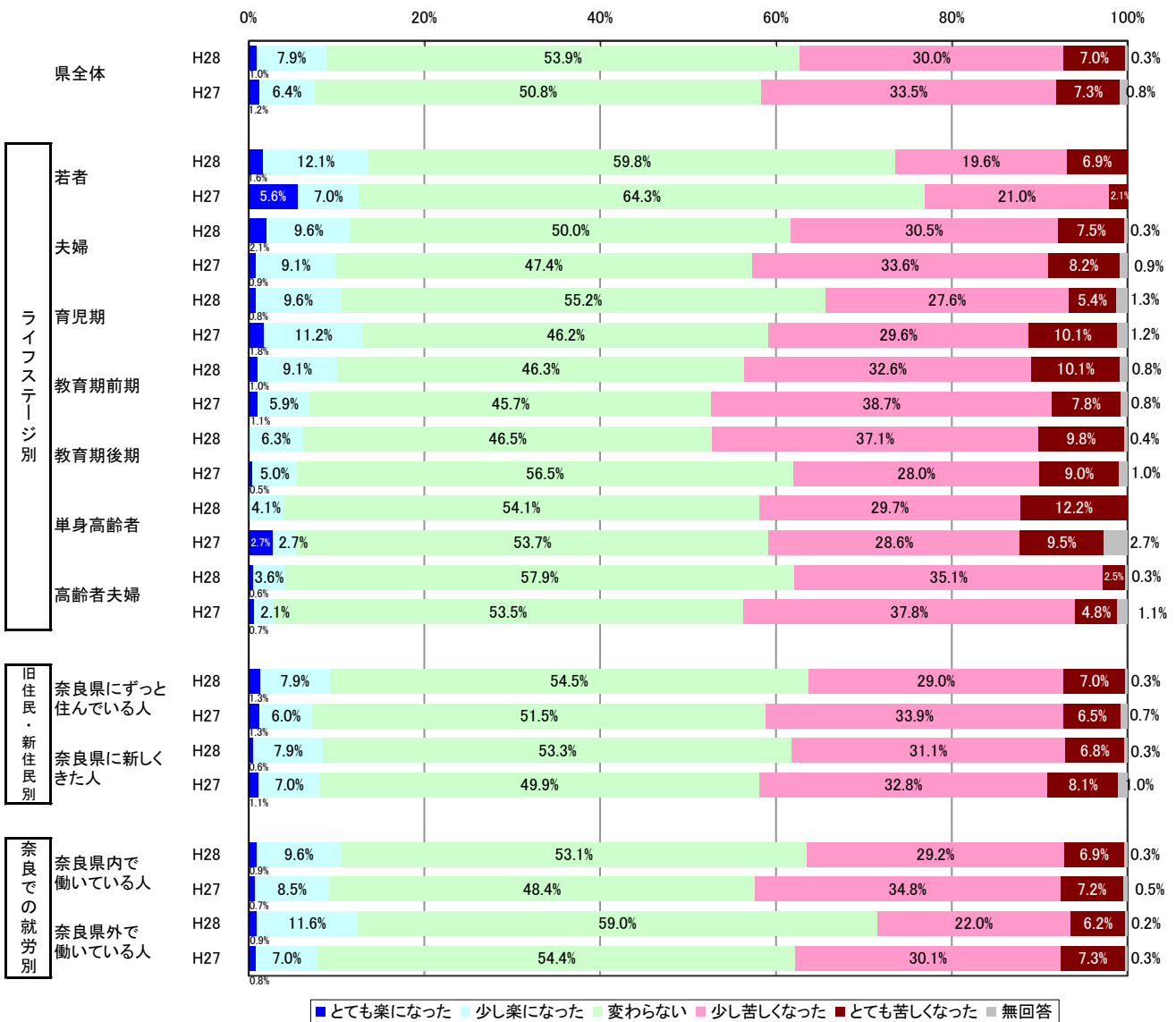
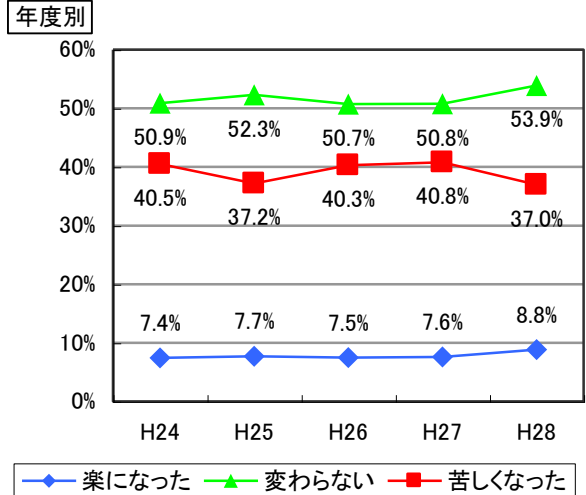
- 「満足」（「満足している」＋「十分とはいえないが一応満足している」）している人は、平成27年度から横ばいの一方、「不満」（「やや不満である」＋「不満である」）を抱えている人は1.7ポイント増加しています。
- ライフステージ別に見ると、「満足」している人が最も多いのは、『育児期』（74.1%）、次いで『若者』（68.3%）となっています。一方で、「不満」を抱えている人が最も多いのは、『単身高齢者』（27.0%）となっています。
- 旧住民・新住民別に見ると、「満足」している人は、『奈良県に新しくきた人』（64.3%）が、『奈良県にずっと住んでいる人』（61.1%）と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別に見ると、「満足」している人は、『奈良県外で働いている人』（66.8%）が、『奈良県内で働いている人』（59.7%）と比べ多くなっています。

年度別



I-2 1年前と比較した暮らし向きの実感（問2）

- 「変わらない」と感じている人は平成27年度から3.1ポイント増加しています。「楽になった」（「とても楽になった」+「少し楽になった」）と感じている人は平成27年度から1.2ポイントの増加となっています。一方で、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」）と感じている人は平成27年度から3.8ポイントの減少となっています。
- ライフステージ別に見ると、「苦しくなった」と感じている人は、『教育期後期』（46.9%）が最も多く、次いで『教育期前期』（42.8%）となっています。
- 旧住民・新住民別に見ると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県に新しくきた人』（37.9%）が、『奈良県にずっと住んでいる人』（36.0%）と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別に見ると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（36.1%）が、『奈良県外で働いている人』（28.3%）と比べ多くなっています。

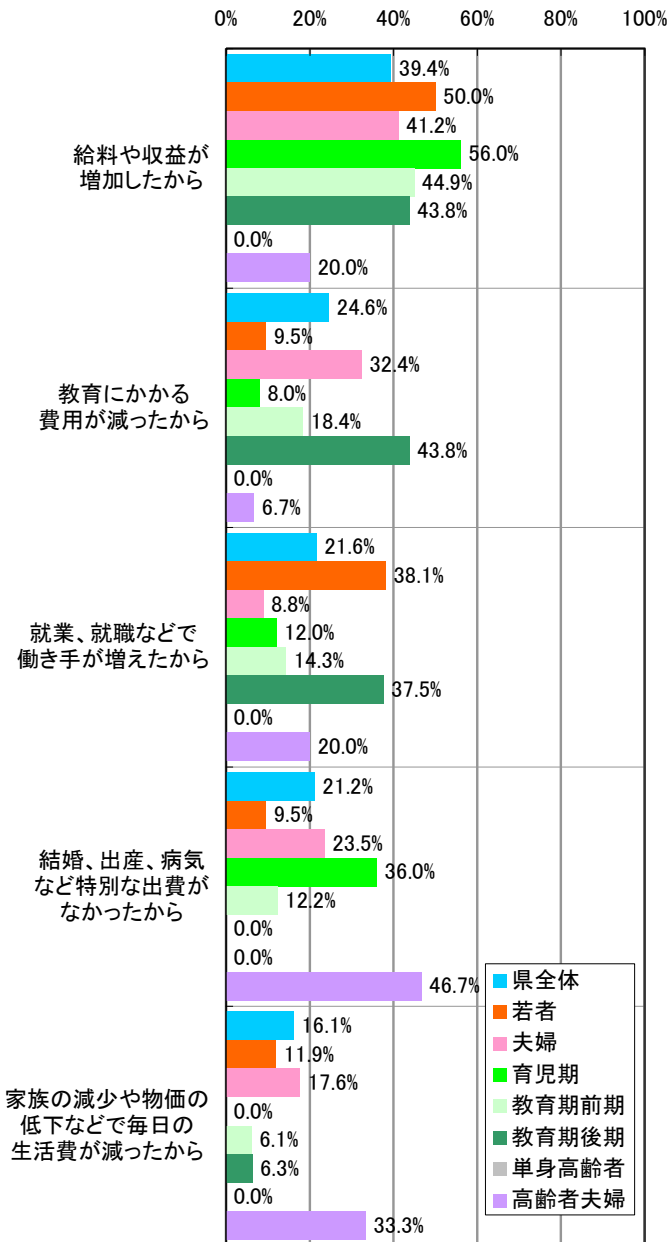


I-3 1年前と比較した暮らし向きの実感が変化した理由（問3、問4）

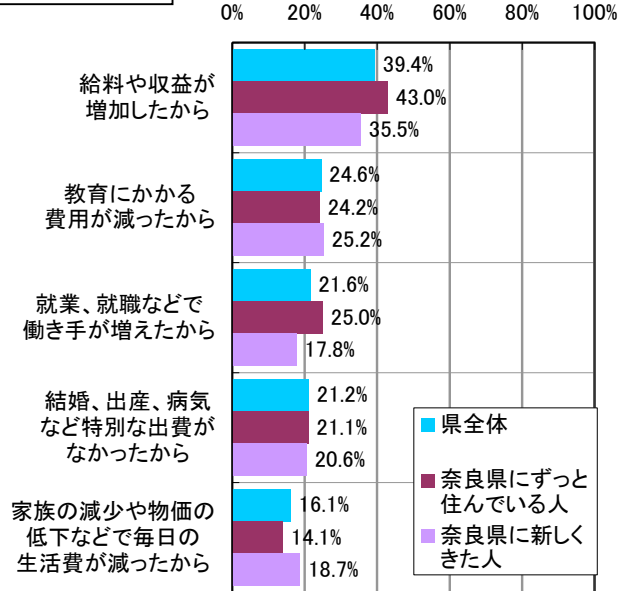
（1）1年前と比較して暮らし向きの実感が、「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由（問3 5つ以内で複数回答 県全体の「その他」を除く上位5項目を掲載）

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増加したから」(39.4%)が最も多く、次いで「教育にかかる費用が減ったから」(24.6%)、「就業、就職などで働き手が増えたから」(21.6%)「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」(21.2%)、「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」(16.1%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増加したから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「就業、就職などで働き手が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

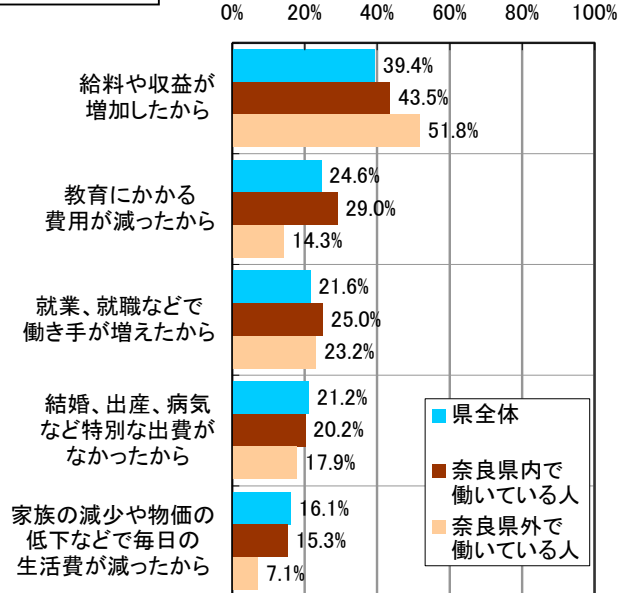
ライフステージ別



旧住民・新住民別



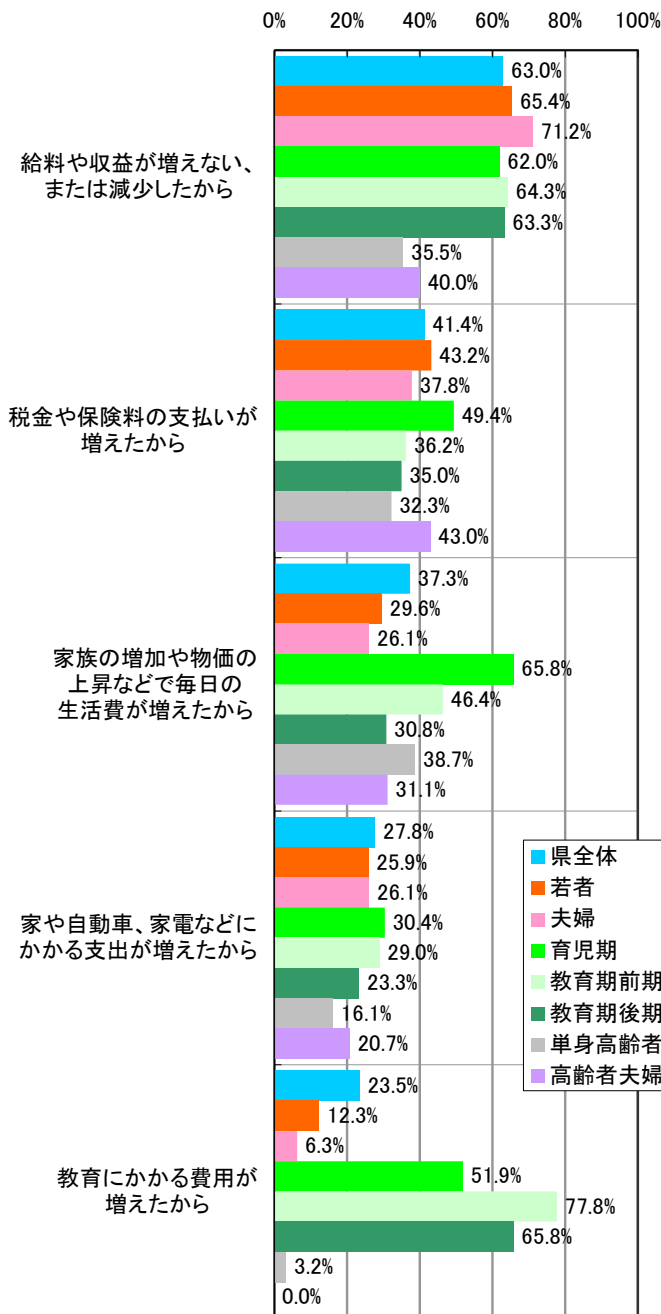
奈良での就労別



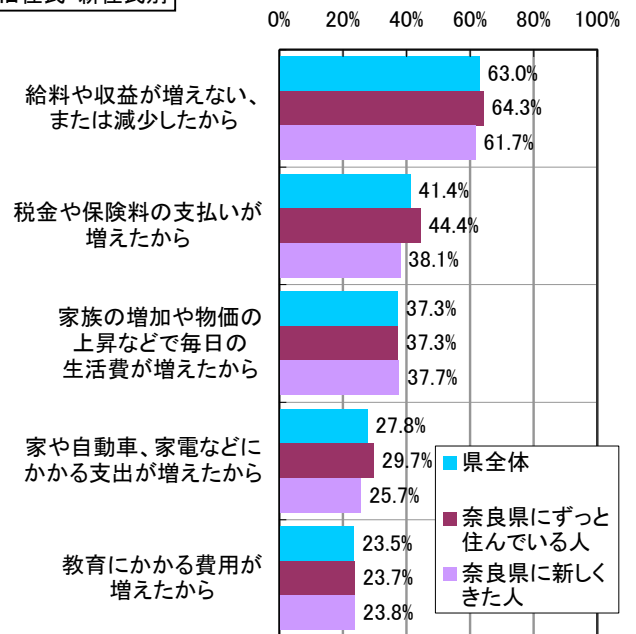
(2) 1年前と比較して暮らし向きの実感が、「とても苦しくなった」または「少し苦しくなった」と答えた理由（問4 5つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載）

- 1年前と比較して暮らし向きが「とても苦しくなった」または「少し苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」（63.0%）が最も多く、次いで「税金や保険料の支払いが増えたから」（41.4%）、「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」（37.3%）、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」（27.8%）、「教育にかかる費用が増えたから」（23.5%）が多くなっています。
- 「給料や収益が増えない、または減少したから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。
- 奈良での就労別にみると、上位5項目いずれも『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

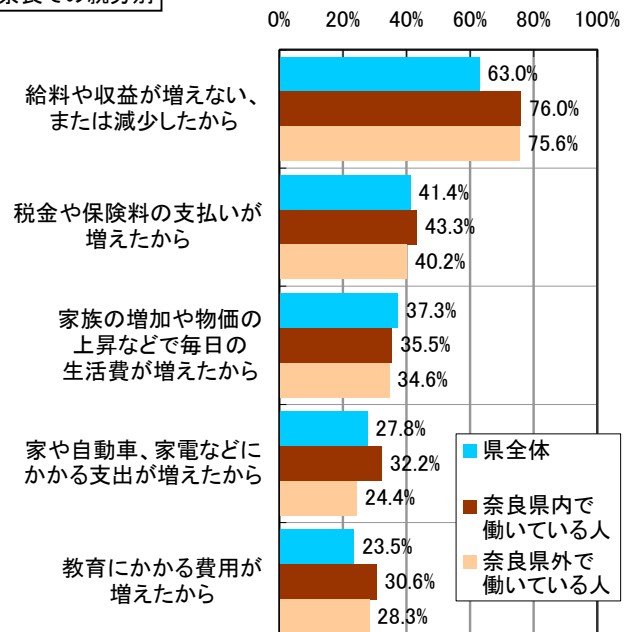
ライフステージ別



旧住民・新住民別



奈良での就労別



I-4 日頃の生活での悩みや不安の有無（問5）

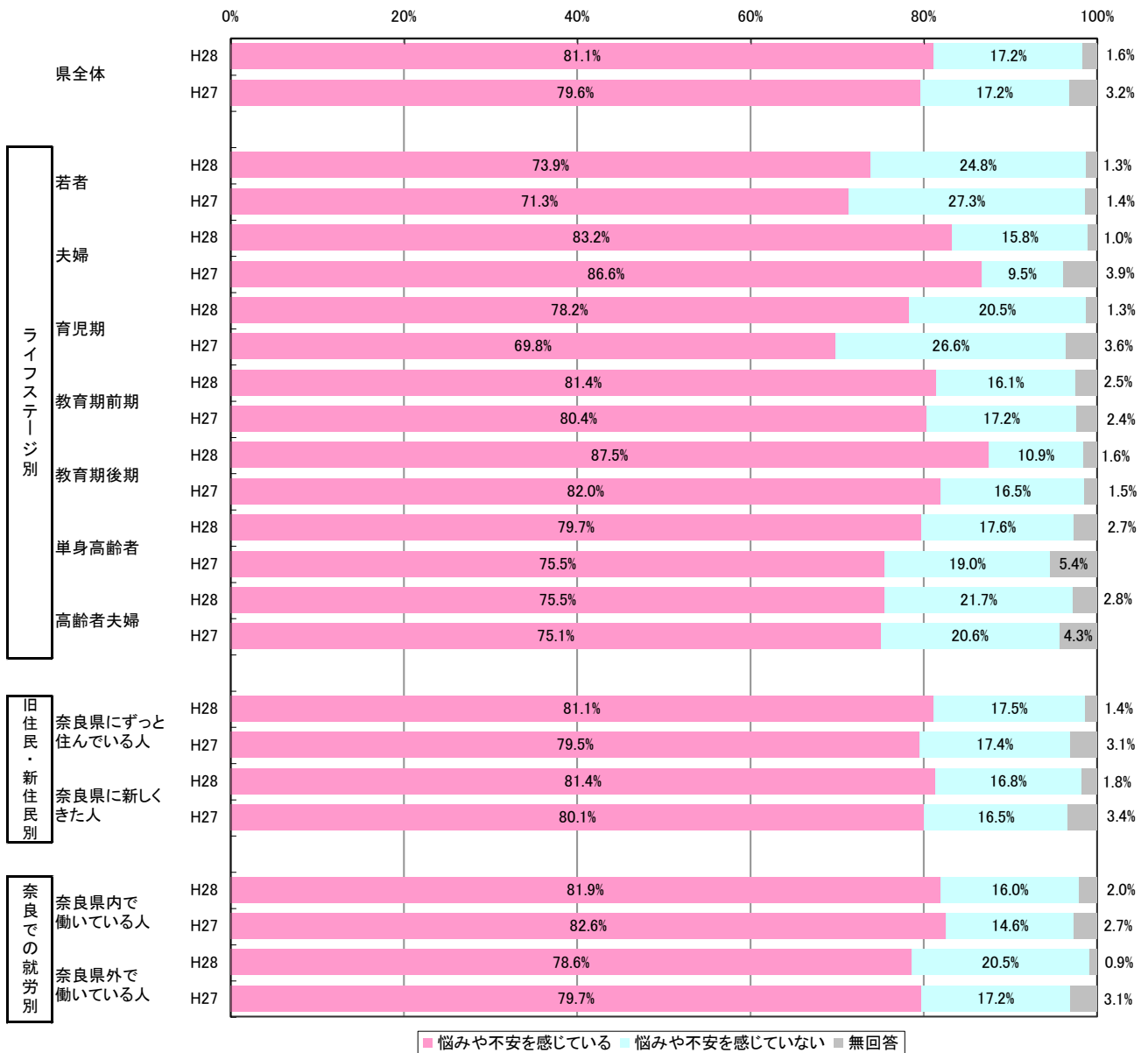
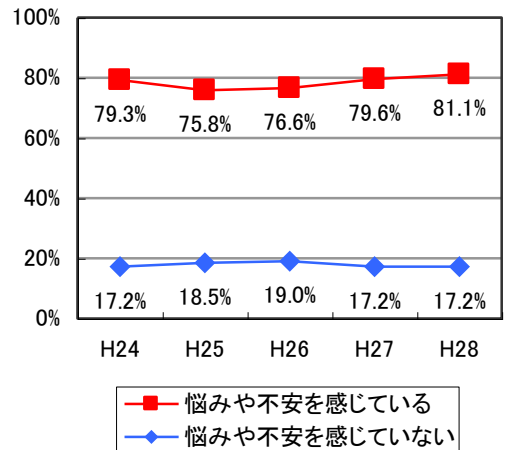
■平成 24 年度から継続して 75%以上の方が日頃の生活に対して「悩みや不安を感じている」と答えています。平成 27 年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は 1.5 ポイント増加し、「悩みや不安を感じていない」と答えた人は横ばいとなっています。

■ライフステージ別に見ると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『教育期後期』（87.5%）で他のライフステージと比べ多くなっています。

■旧住民・新住民別に見ると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県に新しくきた人』（81.4%）が『奈良県にずっと住んでいる人』（81.1%）と比べわずかですが多くなっています。

■奈良での就労別に見ると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県内で働いている人』（81.9%）が『奈良県外で働いている人』（78.6%）と比べ多くなっています。

年度別

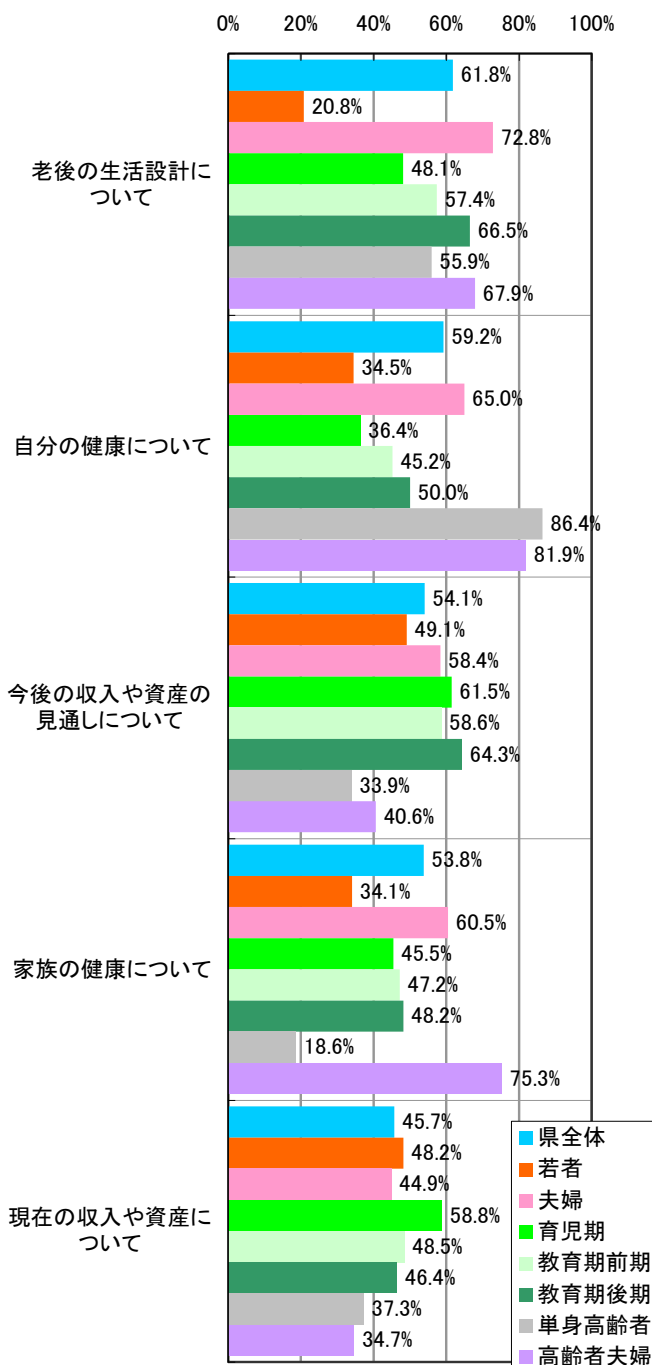


I-5 日頃の生活での悩みや不安の内容

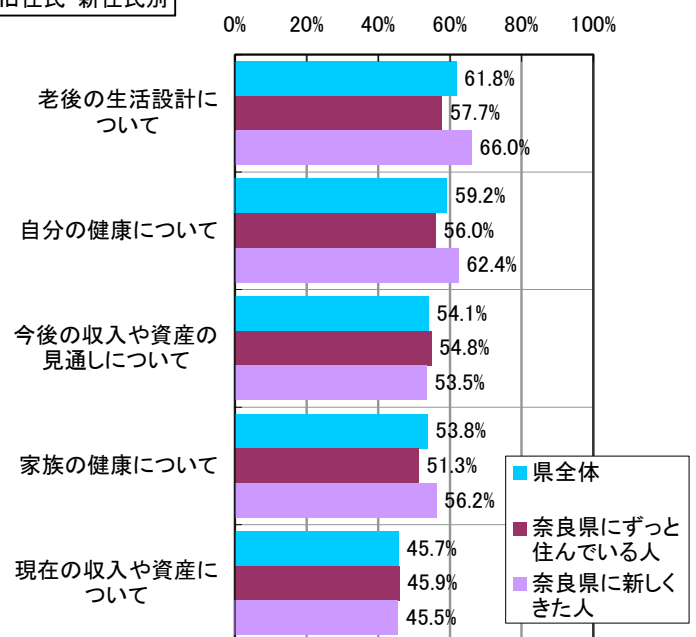
(問6 5つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載)

- 日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「老後の生活設計について」(61.8%)が最も多く、次いで「自分の健康について」(59.2%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(54.1%)、「家族の健康について」(53.8%)、「現在の収入や資産について」(45.7%)が多くなっています。
- 「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

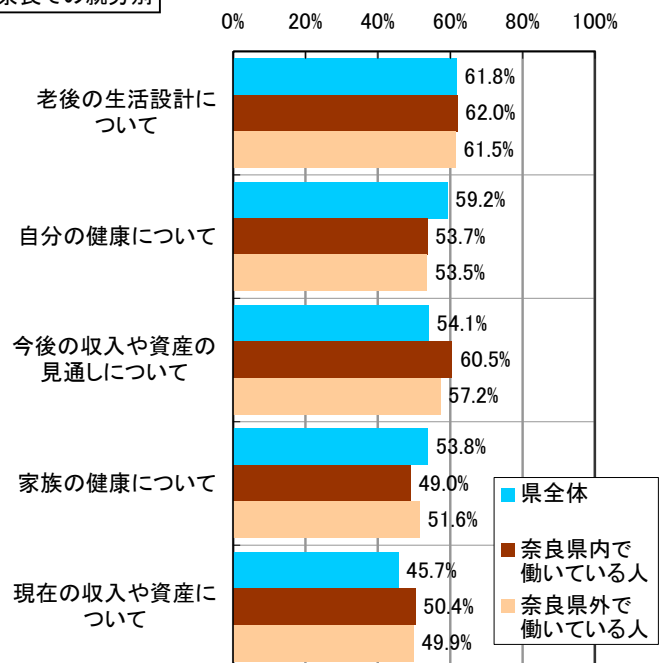
ライフステージ別



旧住民・新住民別



奈良での就労別



I-6 奈良県の住みやすさの評価（問7）

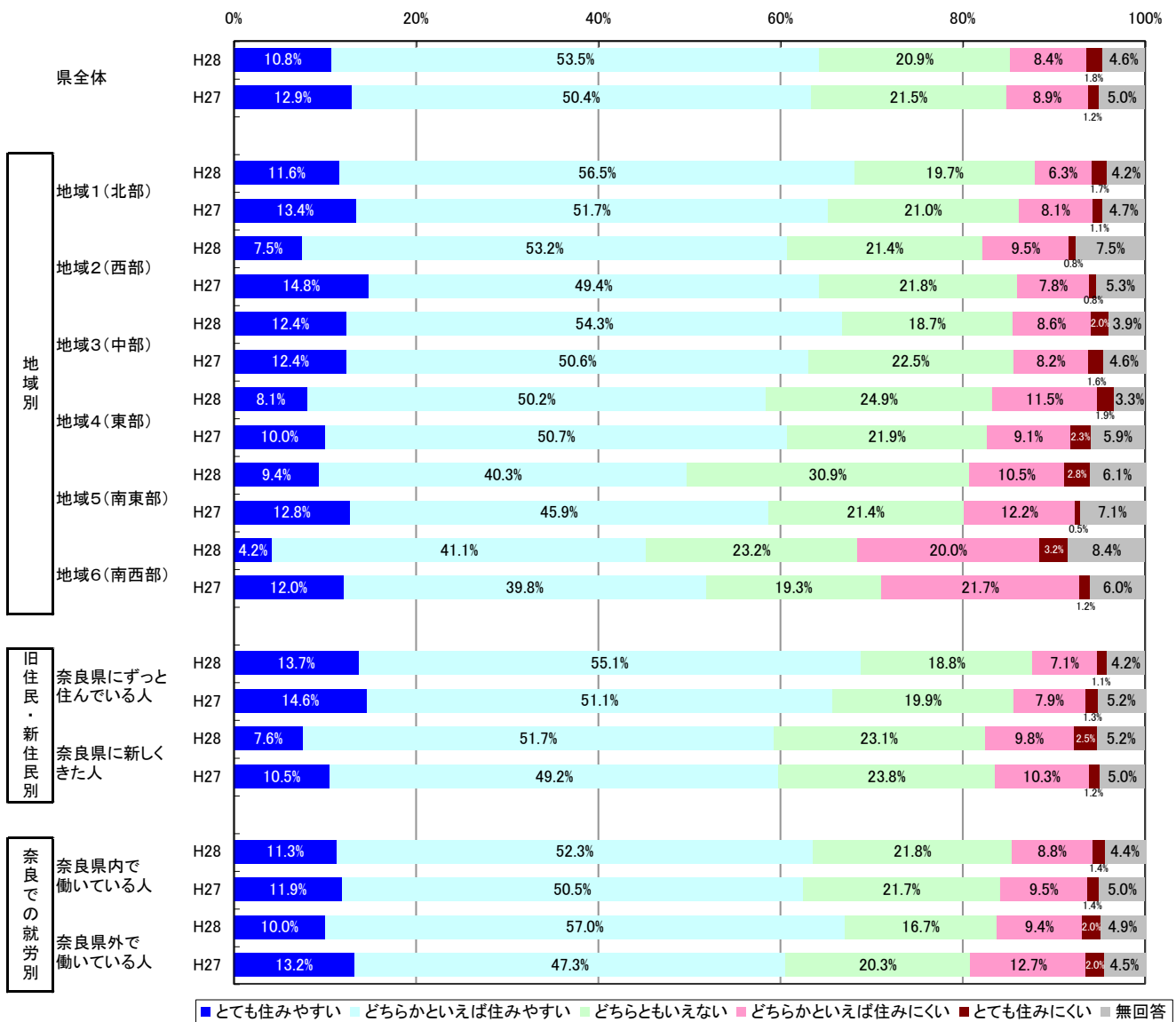
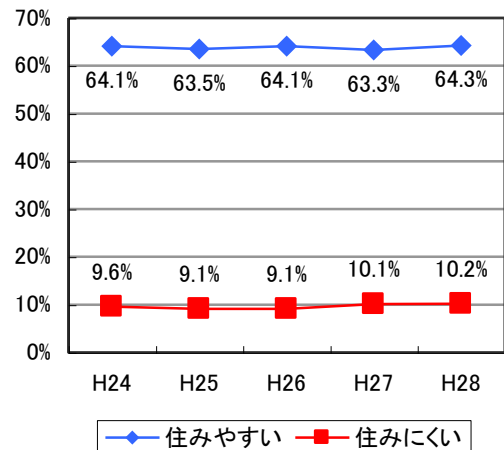
■「住みやすい」（「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」）と感じている人は平成24年度から概ね横ばい傾向にあります。平成27年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は1.0ポイント増加し、「住みにくい」と感じている人は0.1ポイント増加しています。

■地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域1（北部）』（68.1%）が最も多く、次いで『地域3（中部）』（66.8%）、『地域2（西部）』（60.7%）となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（68.8%）が『奈良県に新しくきた人』（59.3%）と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（67.0%）が『奈良県外で働いている人』（63.6%）と比べ多くなっています。

年度別



I-7 将来の奈良県での定住意向（問8）

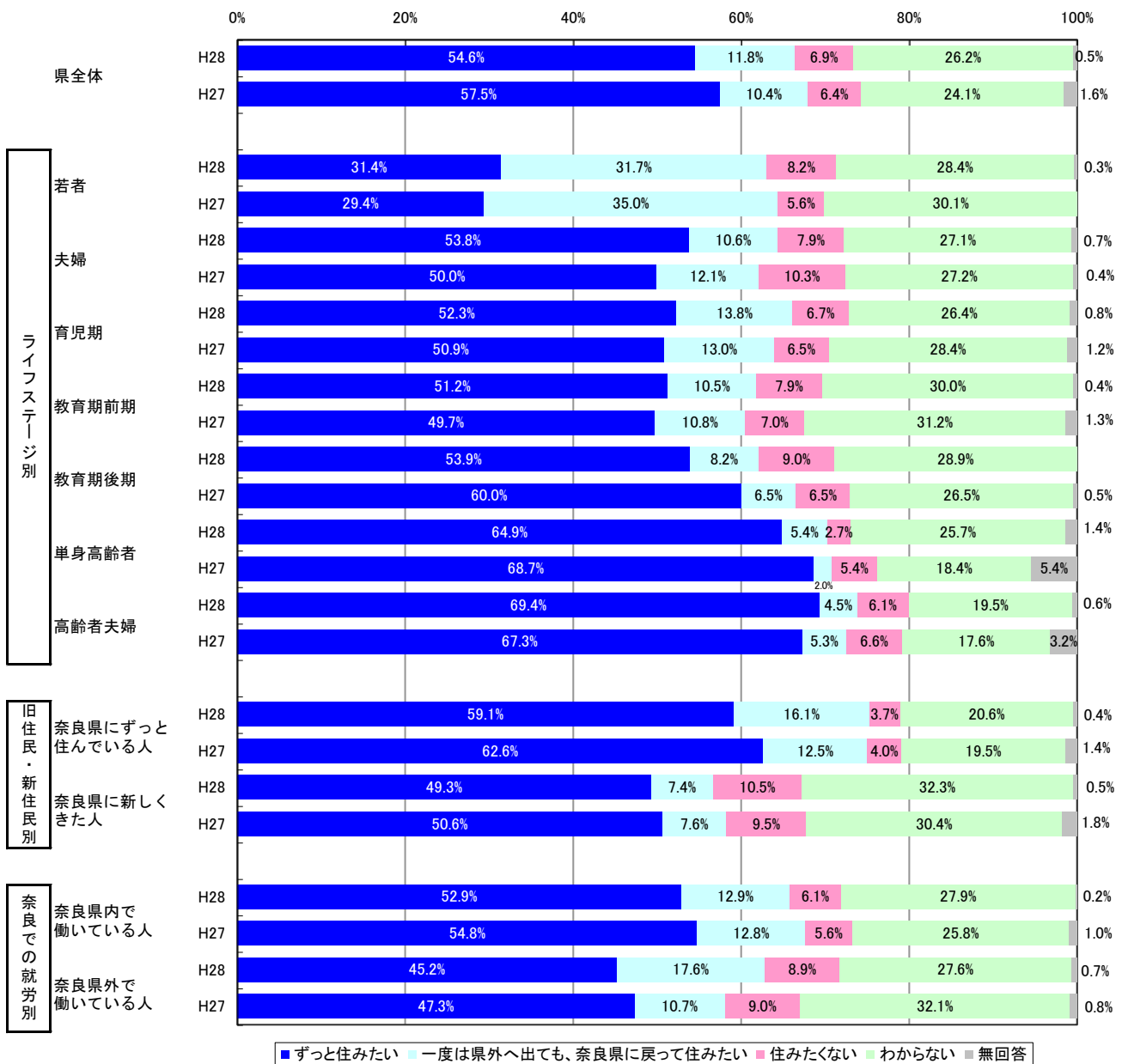
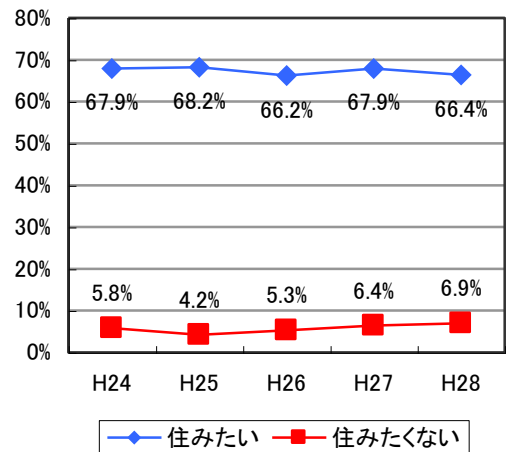
■奈良県に「住みたい」（「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は平成24年度から6割後半で推移しています。平成27年度と比較すると、1.5ポイント減少しています。

■ライフステージ別に見ると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『高齢者夫婦』（69.4%）、最も少ないのは『若者』（31.4%）となっています。一方で、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』（31.7%）となっています。

■旧住民・新住民別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（75.2%）が『奈良県に新しくきた人』（56.7%）と比べ多くなっています。

■奈良での就労別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県内で働いている人』（65.8%）が『奈良県外で働いている人』（62.8%）と比べ多くなっています。

年度別

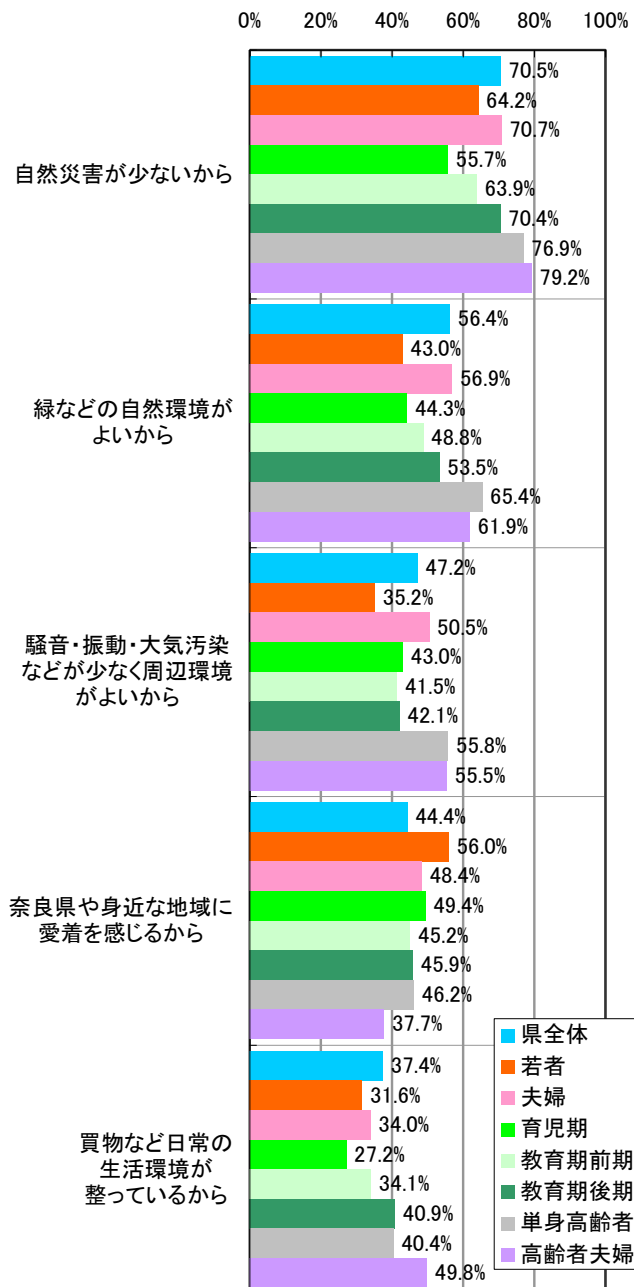


I-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由（問9、問10）

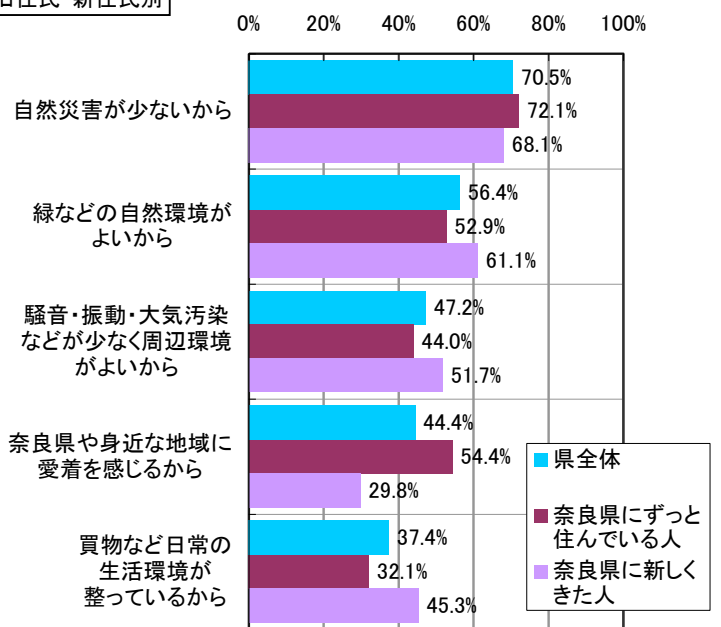
（1）将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由（問9 5つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載）

- 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由を尋ねたところ、「自然災害が少ないから」（70.5%）が最も多く、次いで「緑などの自然環境がよいから」（56.4%）、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」（47.2%）、「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」（44.4%）、「買物など日常の生活環境が整っているから」（37.4%）が多くなっています。
- 「自然災害が少ないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「緑などの自然環境がよいから」「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「買物など日常の生活環境が整っているから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

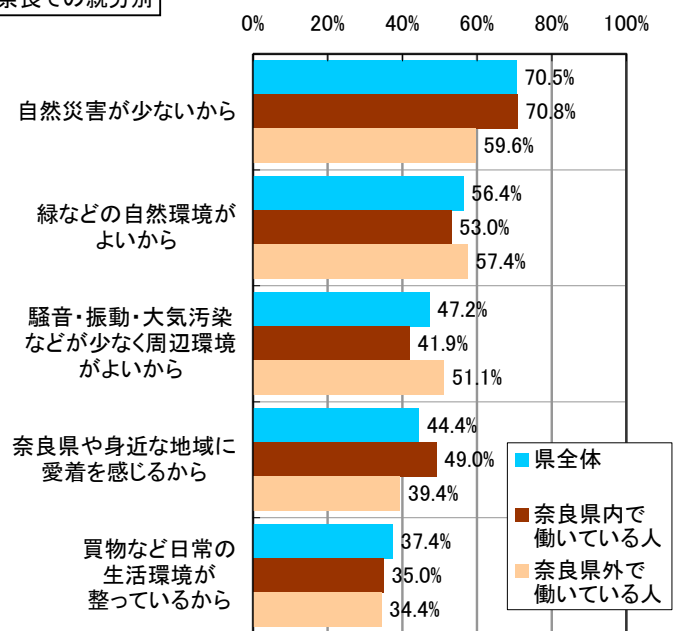
ライフステージ別



旧住民・新住民別



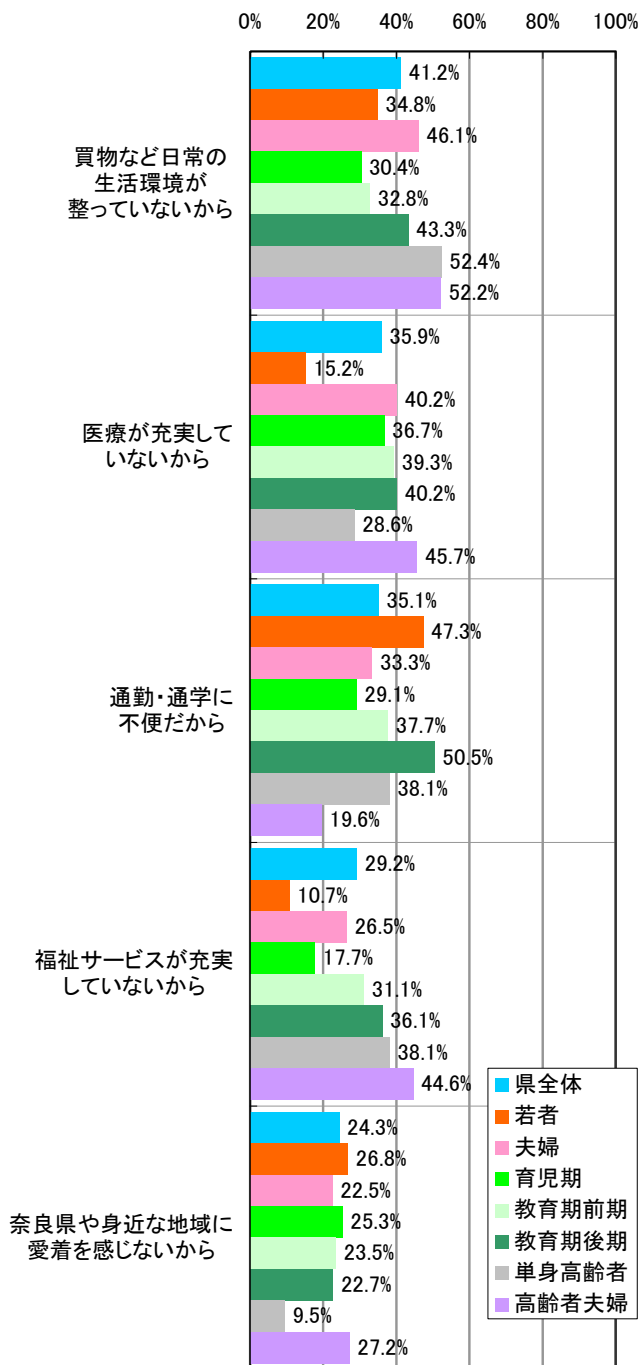
奈良での就労別



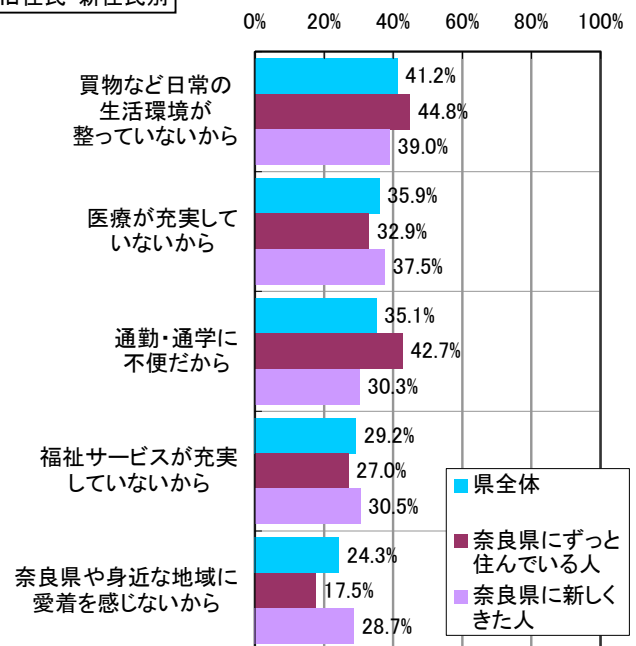
(2) 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由（問10 5つ以内で複数回答 県全体の「その他」を除く上位5項目を掲載）

- 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買い物など日常生活環境が整っていないから」（41.2%）が最も多く、次いで「医療が充実していないから」（35.9%）、「通勤・通学に不便だから」（35.1%）、「福祉サービスが充実していないから」（29.2%）、「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」（24.3%）が多くなっています。
- 「買い物など日常生活環境が整っていないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「医療が充実していないから」「福祉サービスが充実していないから」「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。

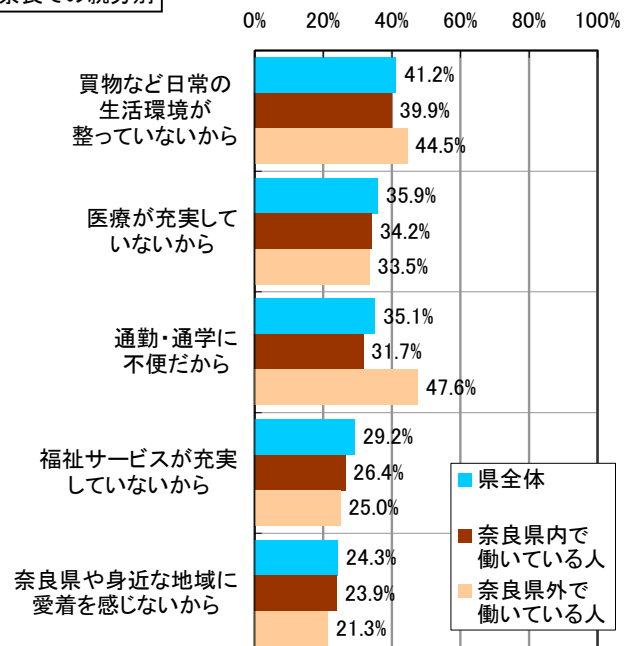
ライフステージ別



旧住民・新住民別



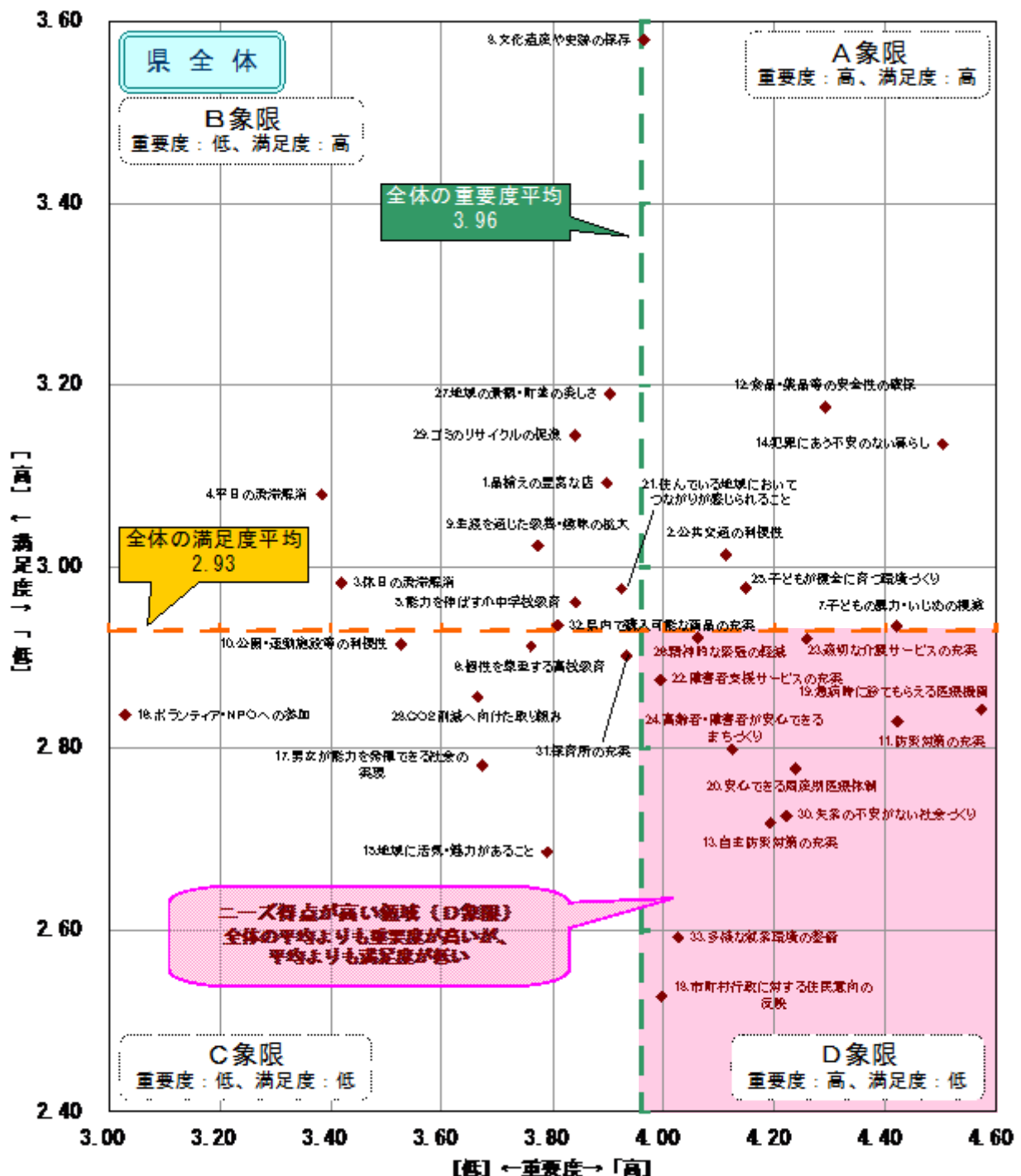
奈良での就労別



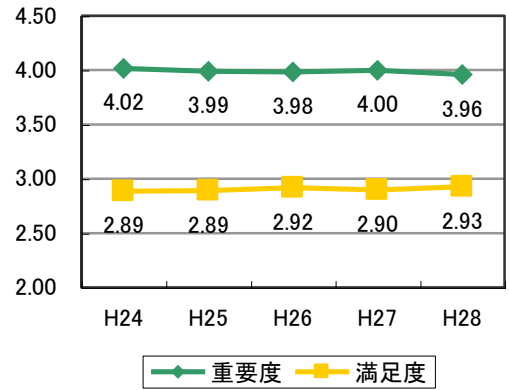
Ⅱ 生活に関する重要度・満足度について（問11）

（1）県全体

- 県民の身近な生活に関する 33 項目それぞれの重要度と満足度を 5 点（高い）～1 点（低い）の 5 段階で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。（次ページ参照）
- ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。（「ニーズ得点＝＜重要度＞×＜6－満足度＞」により算出。）
- 「重要度が高く、満足度が低い」図の右下の領域（D象限）に属する「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度で見ると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度で見ると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「27. 地域の景観・町並の美しさ」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



■ 県民の身近な生活に関する 33 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は平成 24 年度からほぼ横ばい傾向となっています。また、満足度の平均値はゆるやかながら上昇傾向にあります。



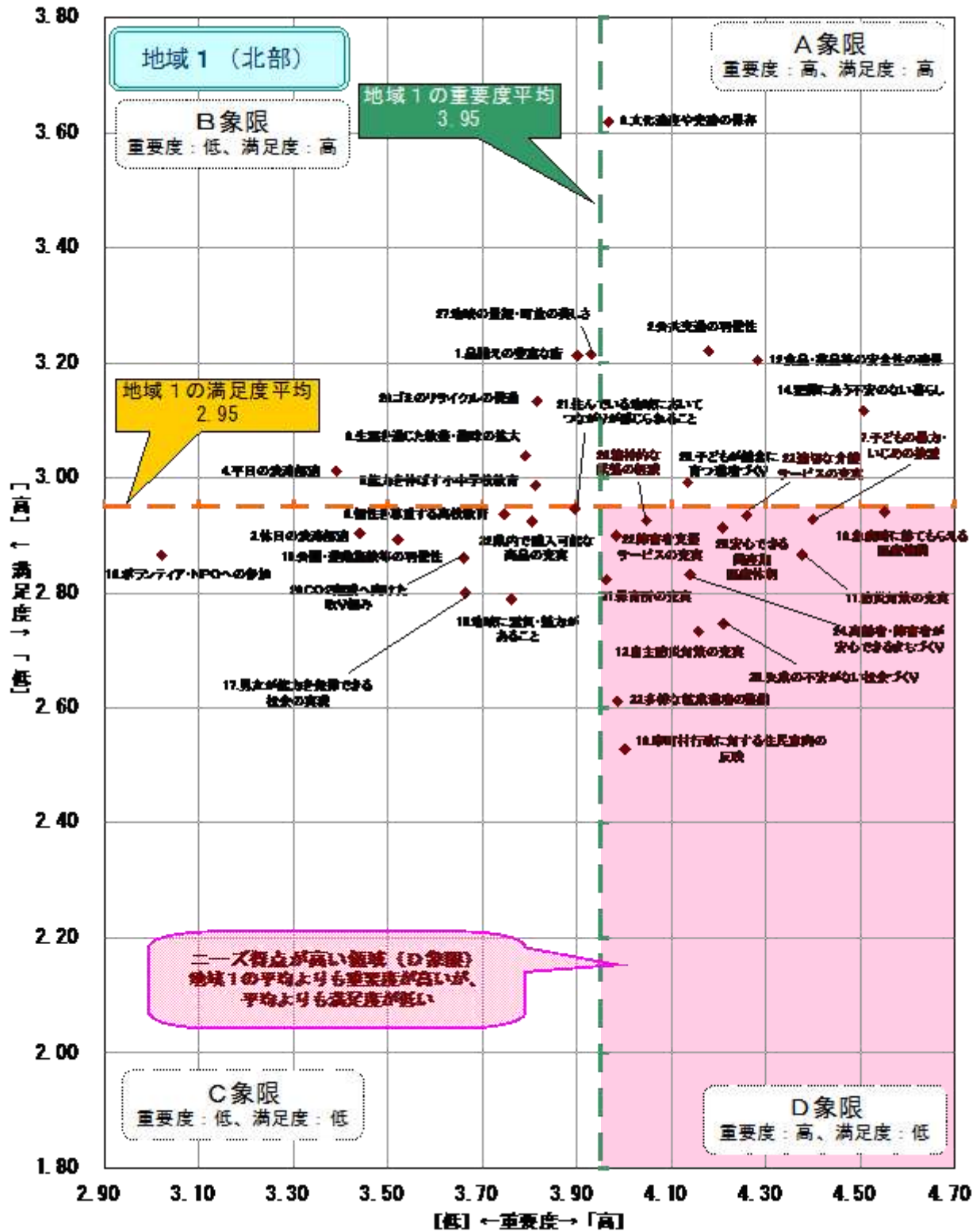
【身近な生活に関する33項目の重要度・満足度・ニーズ得点（5年間の比較）】

項目番号	項目	重要度					満足度					ニーズ得点					重要度と満足度の関係				
		H28	H27	H26	H25	H24	H28	H27	H26	H25	H24	H28	H27	H26	H25	H24	H28	H27	H26	H25	H24
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.90	3.95	3.92	3.90	3.89	3.09	2.94	3.07	3.09	3.03	11.33	12.09	11.47	11.33	11.55	B	B	B	B	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.11	4.10	4.07	4.08	4.08	3.01	2.81	3.02	3.01	3.02	12.28	13.10	12.12	12.20	12.15	A	D	A	A	A
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.42	3.39	3.42	3.40	3.39	2.98	2.97	2.98	2.93	3.02	10.32	10.26	10.33	10.44	10.10	B	B	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.38	3.38	3.41	3.39	3.36	3.08	3.05	3.09	3.06	3.13	9.88	9.95	9.92	9.95	9.63	B	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.84	3.89	3.95	3.98	4.00	2.96	2.91	2.93	2.89	2.88	11.67	12.01	12.10	12.39	12.48	B	B	B	C	C
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.76	3.79	3.82	3.83	3.84	2.91	2.88	2.93	2.89	2.86	11.61	11.81	11.75	11.94	12.06	C	C	B	C	C
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.42	4.46	4.43	4.46	4.44	2.94	2.90	2.95	2.90	2.90	13.55	13.84	13.51	13.83	13.73	A	D	A	A	A
8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.96	4.00	3.96	3.97	4.00	3.58	3.52	3.53	3.53	3.57	9.59	9.92	9.78	9.81	9.73	A	B	B	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を上げられること	3.77	3.83	3.81	3.82	3.83	3.02	2.99	3.03	2.99	3.01	11.23	11.51	11.34	11.47	11.45	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.53	3.53	3.55	3.55	3.55	2.92	2.86	2.90	2.93	2.86	10.88	11.09	10.98	10.91	11.14	C	C	C	B	C
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.42	4.42	4.39	4.39	4.46	2.83	2.83	2.77	2.72	2.67	14.02	14.01	14.18	14.39	14.83	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.29	4.32	4.27	4.31	4.31	3.18	3.13	3.11	3.09	3.20	12.12	12.42	12.37	12.57	12.06	A	A	A	A	A
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	4.19	4.16	4.16	4.19	4.21	2.72	2.76	2.71	2.65	2.70	13.76	13.48	13.69	14.05	13.89	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.50	4.53	4.50	4.53	4.57	3.14	3.09	3.13	3.08	3.05	12.90	13.19	12.91	13.25	13.49	A	A	A	A	A
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.79	3.84	3.84	3.82	3.89	2.69	2.62	2.70	2.68	2.63	12.56	12.98	12.67	12.69	13.12	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.03	3.06	3.06	3.08	3.08	2.84	2.82	2.85	2.83	2.82	9.58	9.71	9.64	9.78	9.81	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.67	3.72	3.70	3.73	3.71	2.78	2.75	2.79	2.76	2.76	11.82	12.09	11.87	12.10	12.00	C	C	C	C	C
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.00	4.03	4.00	4.03	4.06	2.53	2.53	2.57	2.53	2.53	13.88	13.96	13.73	13.98	14.10	D	D	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.57	4.62	4.57	4.63	4.64	2.84	2.84	2.80	2.73	2.75	14.43	14.61	14.61	15.15	15.08	D	D	D	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.24	4.31	4.29	4.32	4.37	2.78	2.70	2.72	2.65	2.61	13.66	14.22	14.09	14.47	14.82	D	D	D	D	D
21	住んでいる地域において、互いに見守り、助け合うなどつながりが感じられること	3.92	-	-	-	-	2.98	-	-	-	-	11.87	-	-	-	-	B	-	-	-	-
22	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	3.99	4.13	4.10	4.14	4.14	2.88	2.82	2.84	2.80	2.78	12.48	13.14	12.96	13.26	13.32	D	D	D	D	D
23	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.26	4.40	4.34	4.37	4.37	2.92	2.87	2.89	2.88	2.88	13.11	13.75	13.51	13.60	13.63	D	D	D	D	D
24	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.12	4.21	4.18	4.18	4.18	2.80	2.74	2.77	2.73	2.74	13.20	13.72	13.50	13.64	13.62	D	D	D	D	D
25	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.15	4.22	4.19	4.19	4.24	2.98	2.95	2.96	2.94	2.95	12.54	12.87	12.75	12.82	12.94	A	A	A	A	A
26	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.06	4.03	4.01	3.98	4.02	2.92	2.94	2.96	2.95	2.91	12.50	12.33	12.19	12.16	12.39	D	A	A	B	B
27	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.90	3.92	3.92	3.92	3.93	3.19	3.16	3.17	3.17	3.18	10.97	11.14	11.09	11.11	11.09	B	B	B	B	B
28	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.67	3.75	3.74	3.76	3.77	2.86	2.88	2.88	2.85	2.83	11.52	11.70	11.69	11.86	11.97	C	C	C	C	C
29	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.84	3.95	3.90	3.92	3.92	3.15	3.24	3.20	3.19	3.13	10.96	10.88	10.90	11.03	11.26	B	B	B	B	B
30	失業の不安がなく働けること	4.22	4.26	4.24	4.28	4.36	2.73	2.70	2.68	2.61	2.57	13.82	14.07	14.07	14.52	14.97	D	D	D	D	D
31	保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること	3.93	3.94	3.91	3.94	-	2.90	2.91	2.89	2.88	-	12.18	12.16	12.17	12.27	-	C	B	C	C	-
32	県内で買いたいものが販売されていること	3.81	3.76	3.77	3.75	3.80	2.94	2.98	2.98	2.99	2.97	11.67	11.37	11.40	11.28	11.52	B	B	B	B	B
33	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.03	4.03	4.03	4.00	4.08	2.59	2.59	2.59	2.54	2.52	13.72	13.74	13.76	13.81	14.23	D	D	D	D	D

(注) 「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページ参照。
 網掛けした項目は満足度が当該年度の全項目の平均値を下回るもの（C象限・D象限）であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの（D象限）、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目（ニーズ得点が高い項目）である。なお、「-」はそれ以前の年度において未調査のため、数値がないことを示している。

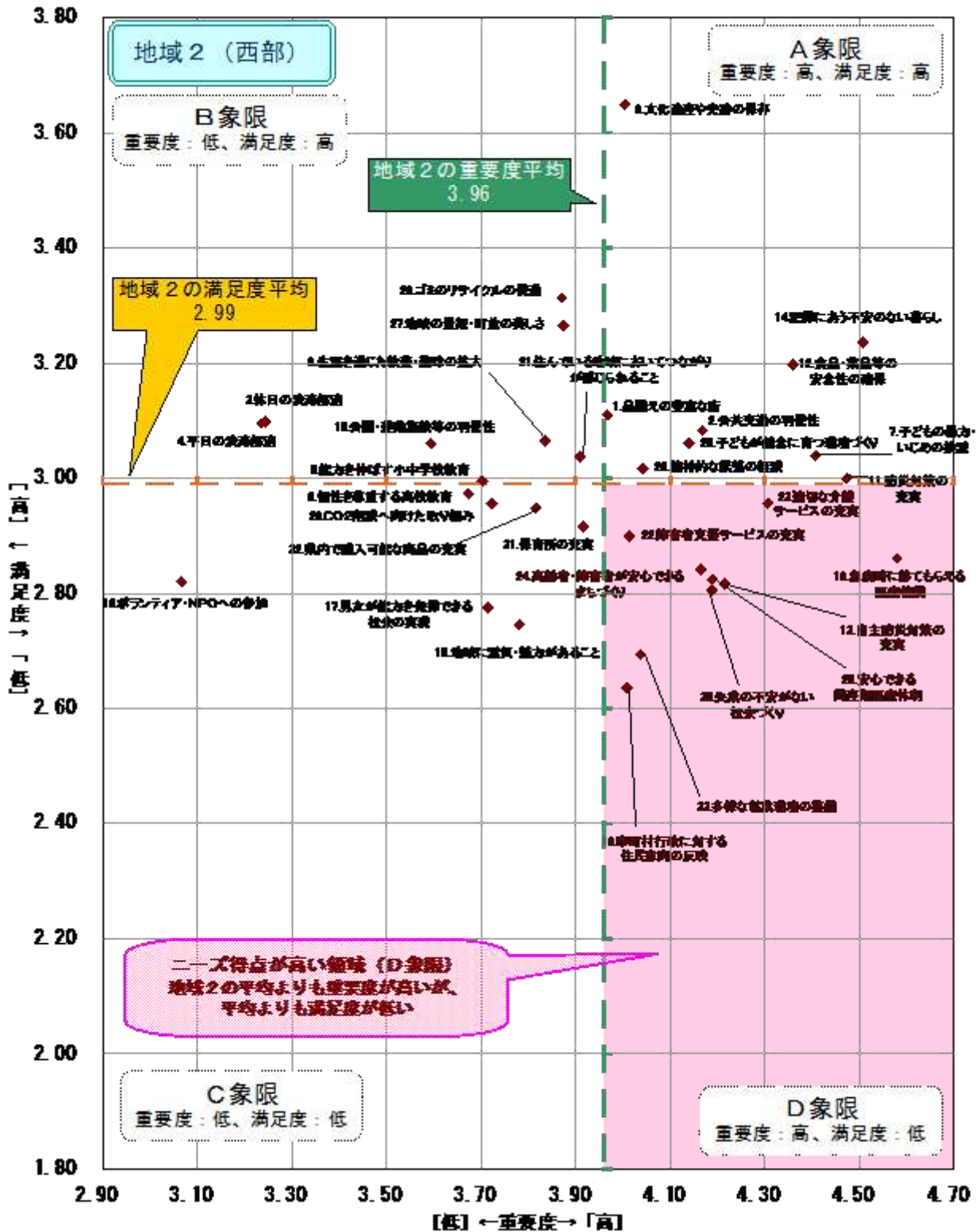
(2) 地域1 (北部)

- 『地域1 (北部)』においては、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「27. 地域の景観・町並の美しさ」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



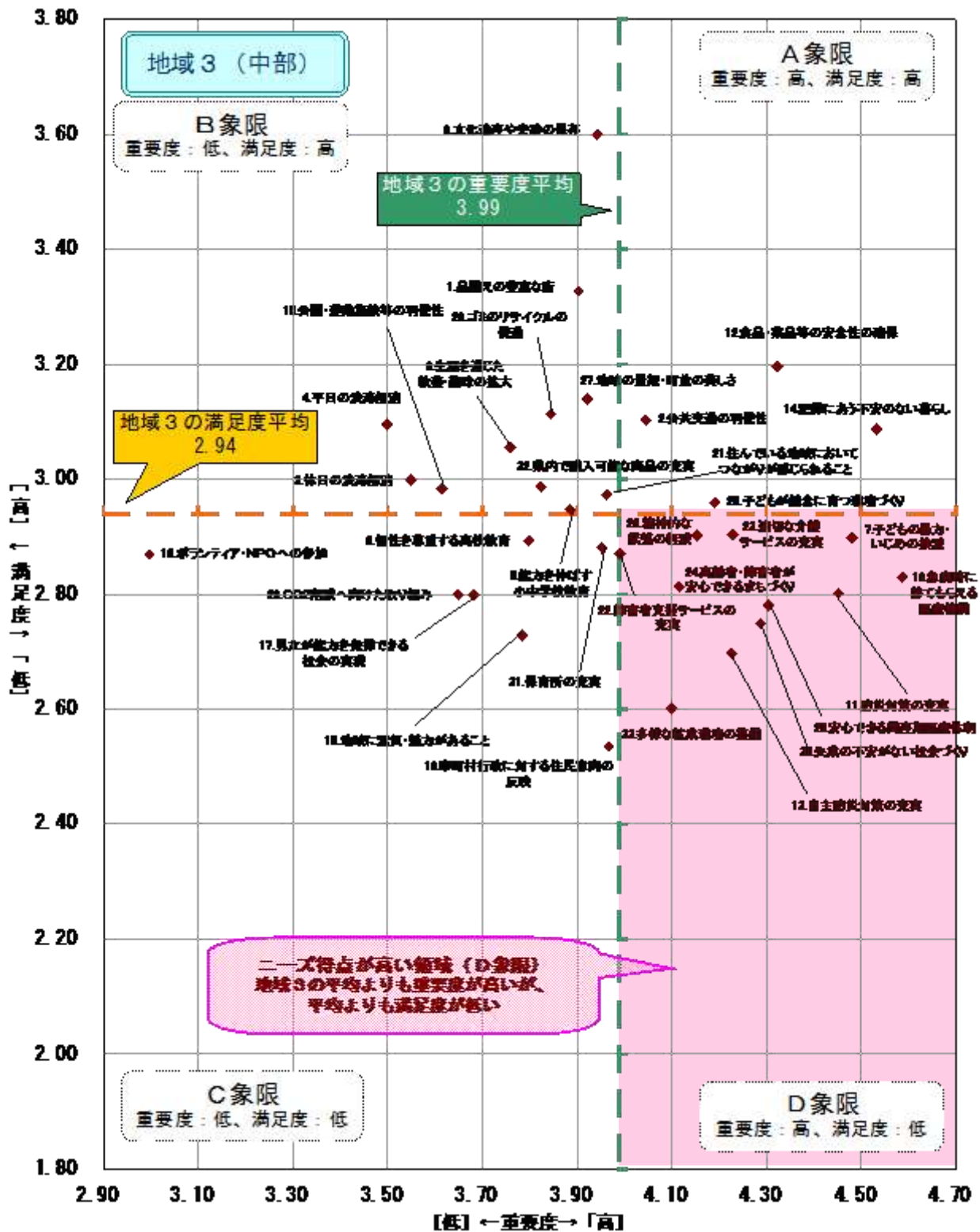
(3) 地域2 (西部)

- 『地域2 (西部)』においては、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「13. 自主防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



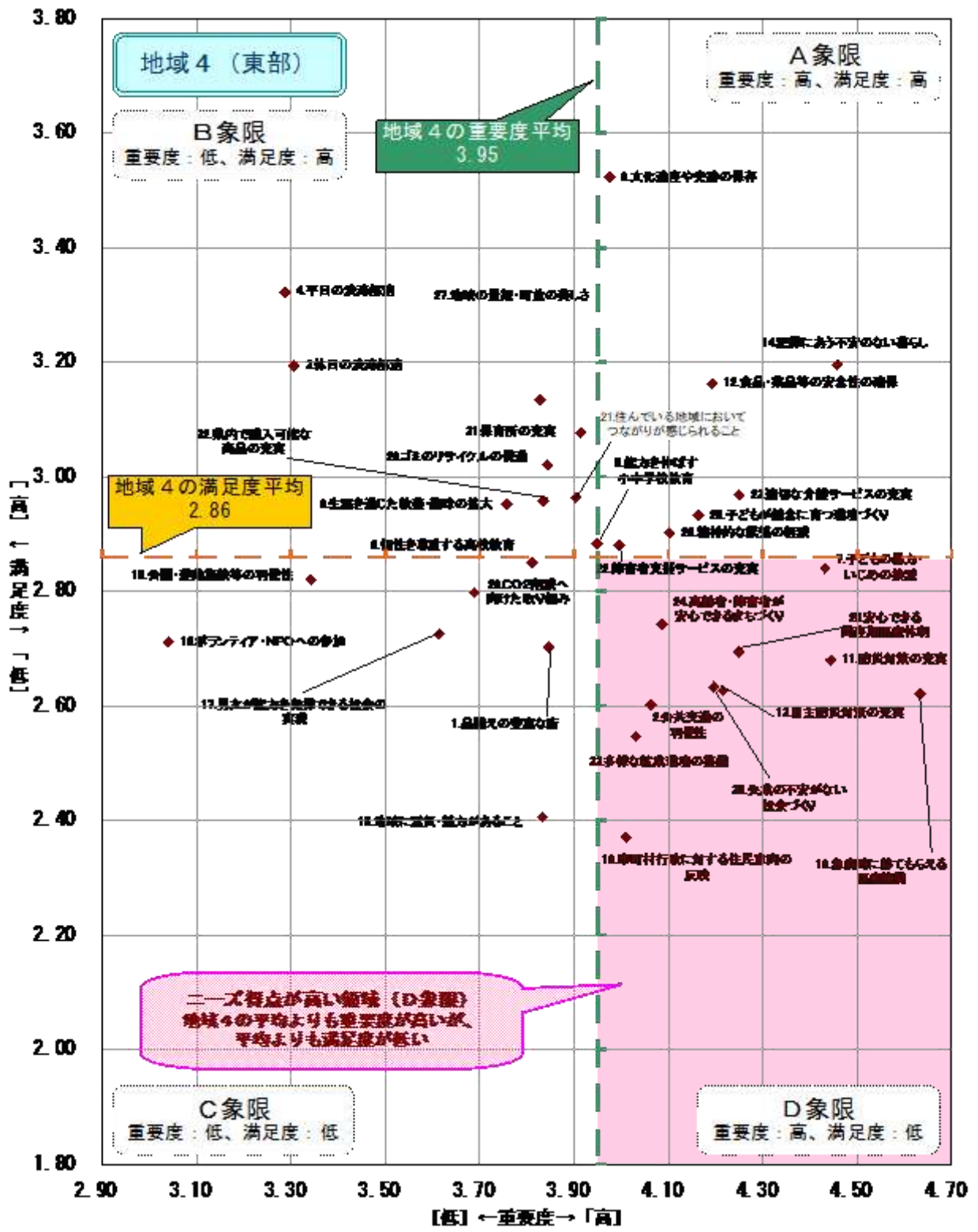
(4) 地域3 (中部)

- 『地域3 (中部)』においては、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」、「13. 自主防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



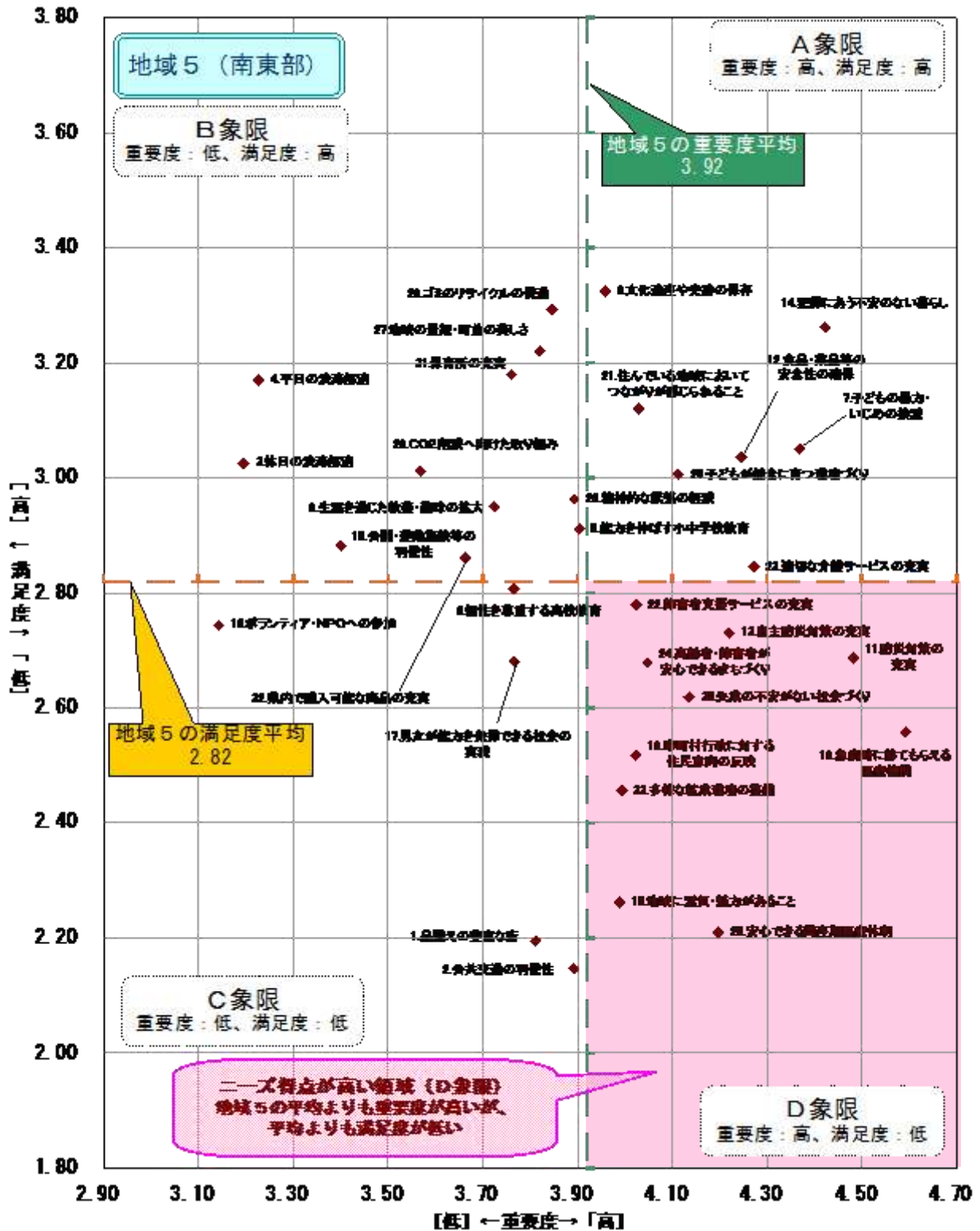
(5) 地域4 (東部)

- 『地域4 (東部)』においては、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。



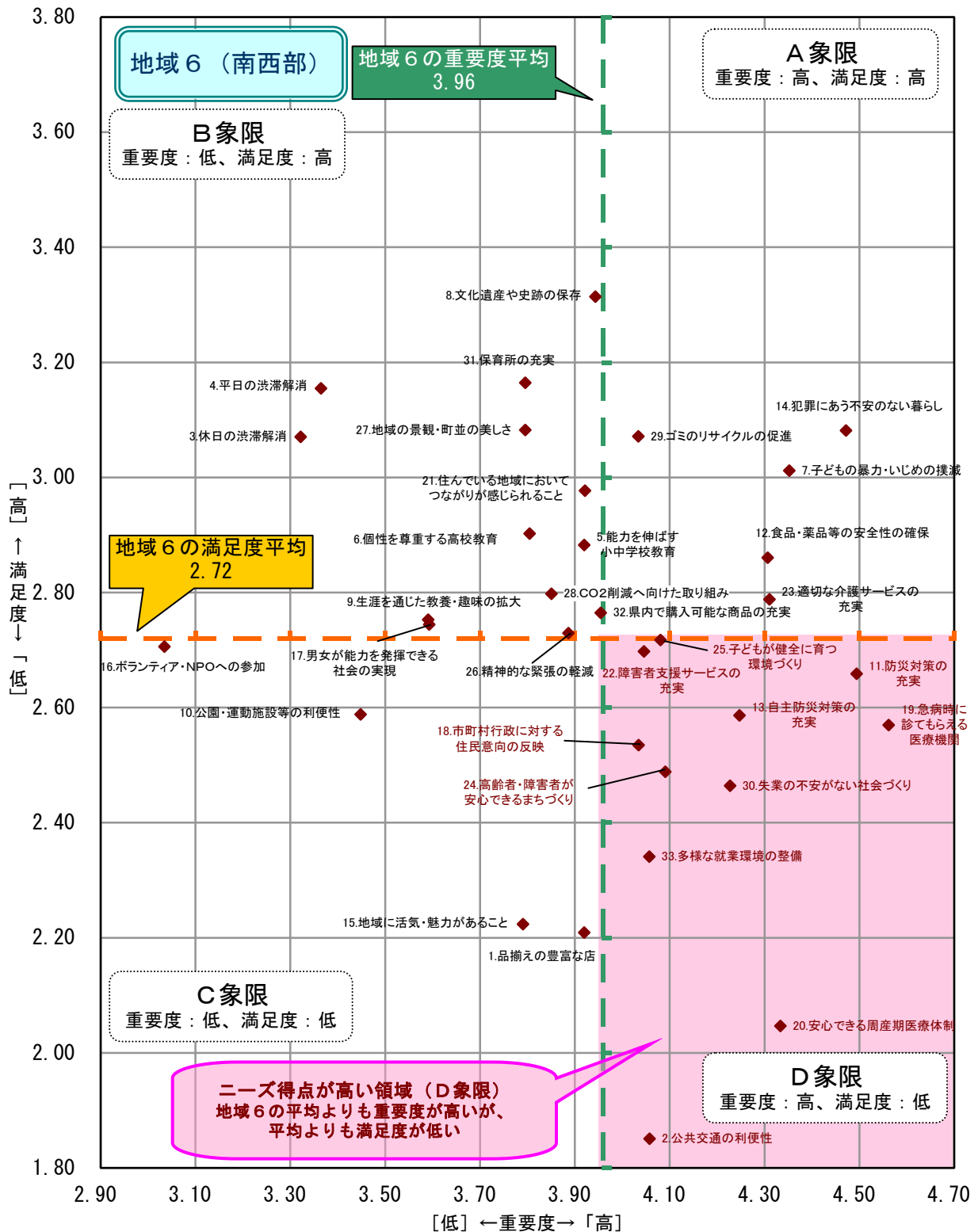
(6) 地域5 (南東部)

- 『地域5 (南東部)』においては、「20. 安心できる周産期医療体制」「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「2. 公共交通の利便性」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。



(7) 地域6 (南西部)

- 『地域6 (南西部)』においては、「20. 安心できる周産期医療体制」、「2. 公共交通の利便性」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「31. 保育所の充実」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「20. 安心できる周産期医療体制」となっています。

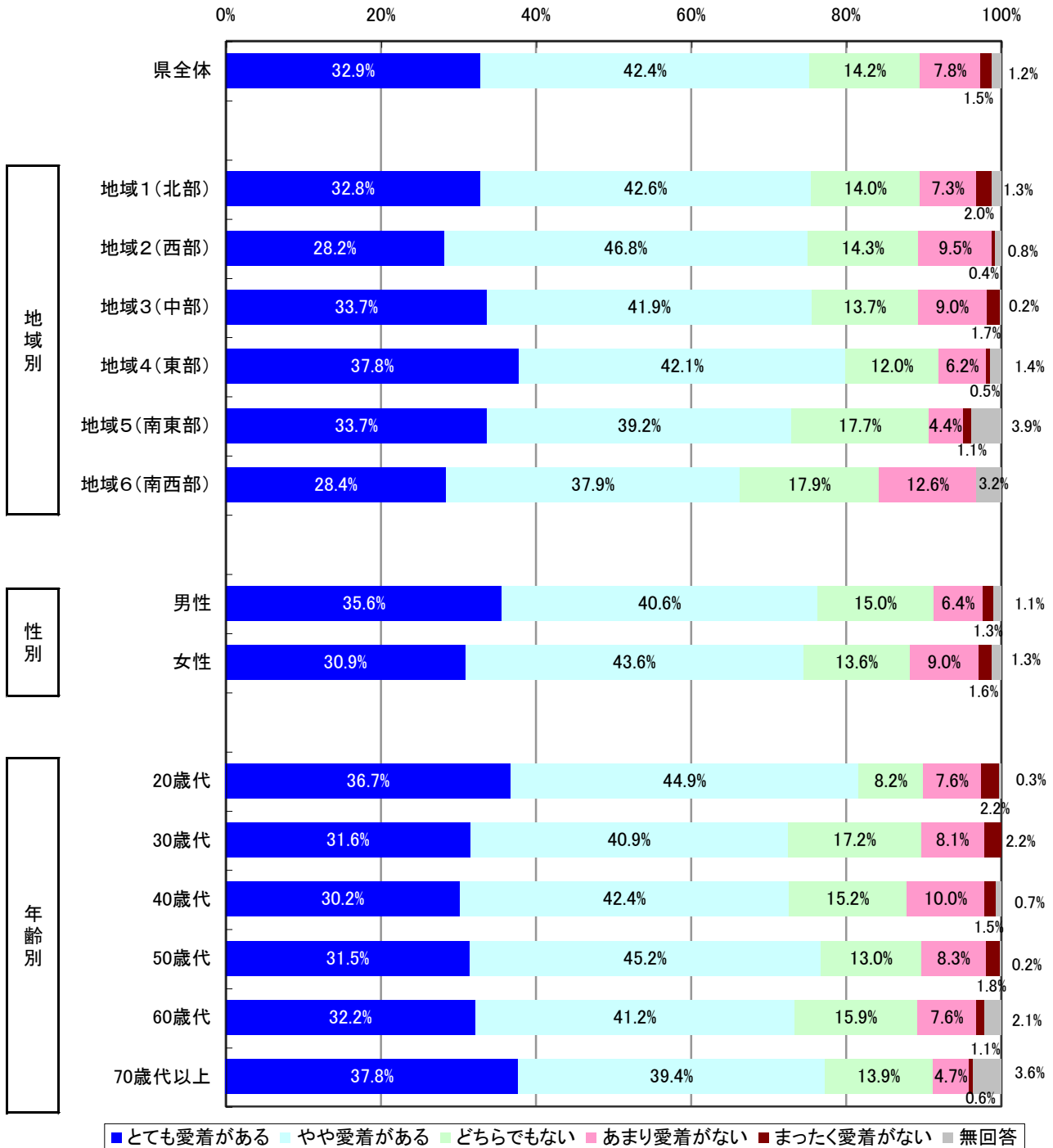


Ⅲ～Ⅺ 県民の生活に関する意識やニーズについて

Ⅲ 奈良県への愛着について

(1) 奈良県への愛着 (問12)

■奈良県への愛着についてみると、「愛着がある」(「とても愛着がある」+「やや愛着がある」)人は75.3%となっています。
 ■地域別にみると、「愛着がある」は『地域4(東部)』(79.9%)で最も多く、『地域6(南西部)』(66.3%)で最も少なくなっています。
 ■性別にみると、「愛着がある」は『男性』(76.3%)が『女性』(74.5%)に比べて多くなっています。
 ■年齢別にみると、「愛着がある」は『20歳代』(81.6%)で最も多く、『30歳代』(72.5%)で最も少なくなっています。



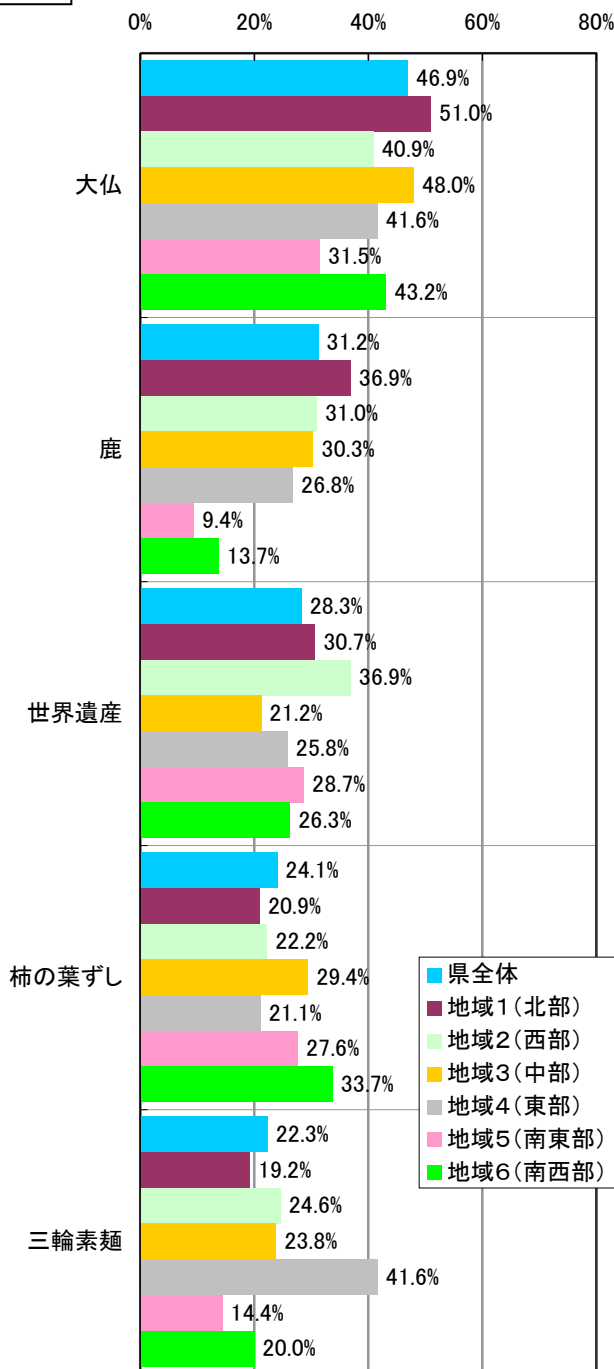
IV 産業構造の改革について

(1) 「奈良のブランド」として全国に発信できるキーワード

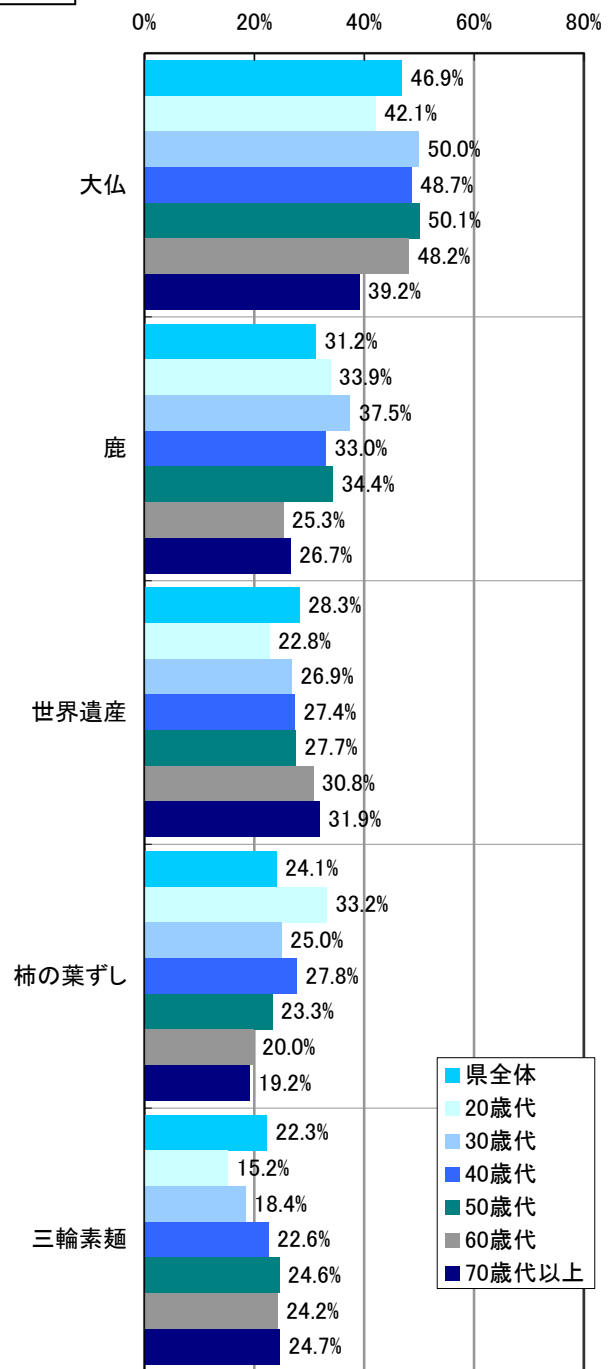
(問13 3つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載)

- 「奈良のブランド」として全国に発信できるキーワードをみると、「大仏」(46.9%) が最も多く、次いで「鹿」(31.2%)、「世界遺産」(28.3%)、「柿の葉ずし」(24.1%)、「三輪素麺」(22.3%)となっています。
- 「大仏」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「鹿」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「世界遺産」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「柿の葉ずし」と答えた人については、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「三輪素麺」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』が最も多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。

地域別



年齢別

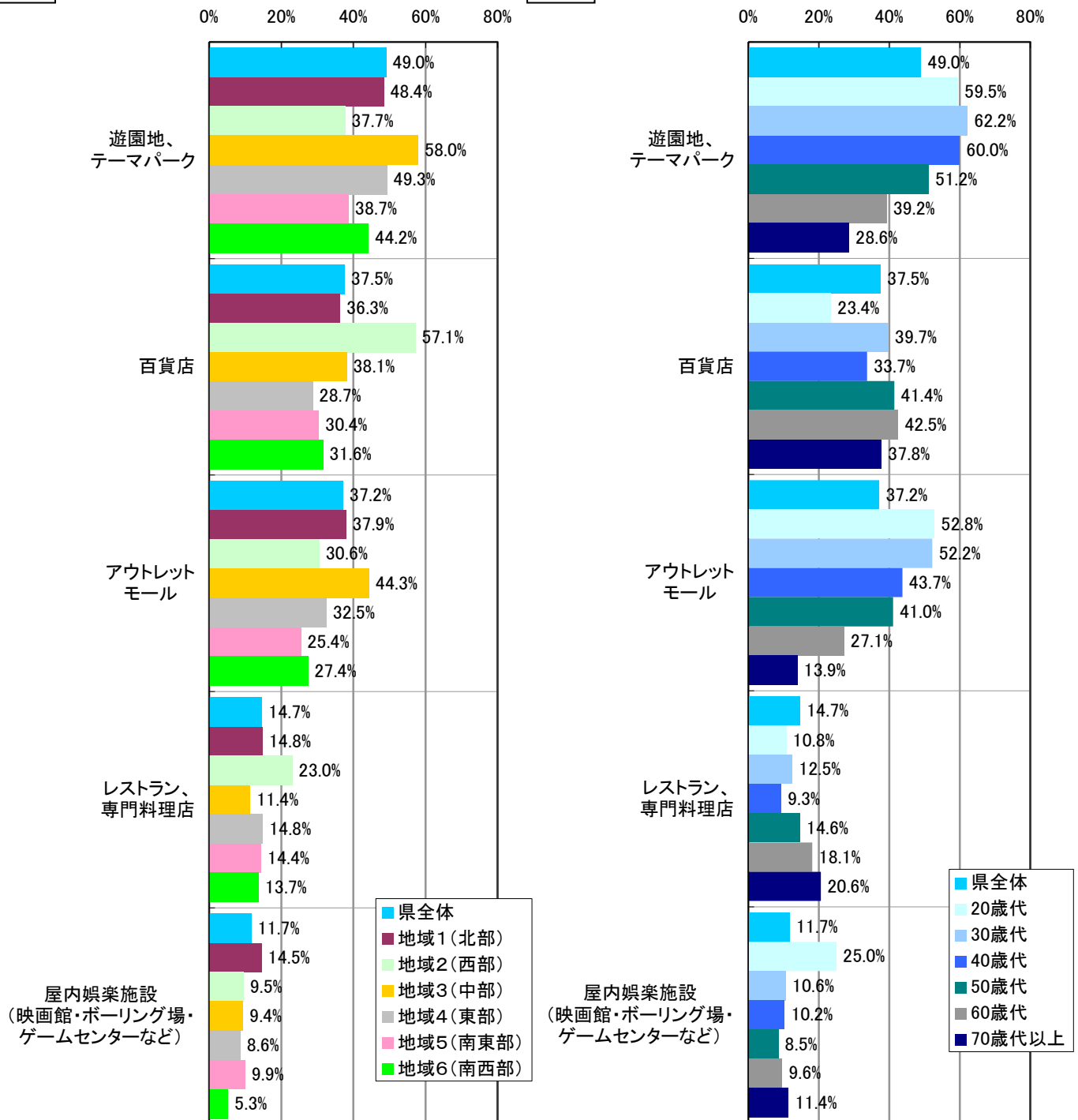


(2) 県外で利用することが多い商業施設(問15 2つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載)

- 県外で利用することが多い商業施設についてみると、「遊園地、テーマパーク」(49.0%)が最も多く、次いで「百貨店」(37.5%)、「アウトレットモール」(37.2%)、「レストラン、専門料理店」(14.7%)、「屋内娯楽施設(映画館・ボーリング場・ゲームセンターなど)」(11.7%)となっています。
- 「遊園地、テーマパーク」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』が最も多く、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「百貨店」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「アウトレットモール」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』が最も多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「レストラン、専門料理店」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「屋内娯楽施設(映画館・ボーリング場・ゲームセンターなど)」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。

地域別

年齢別

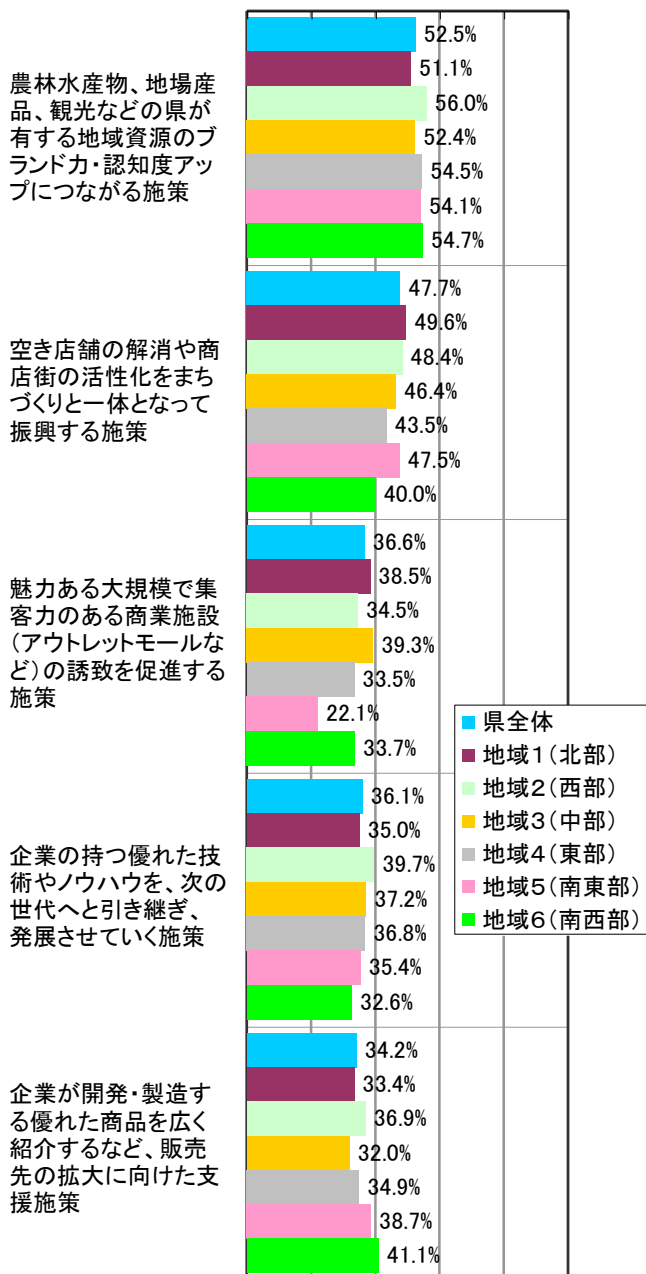


(3) 今後期待する県内産業・経済活性化に向けた「産業興し」の取組

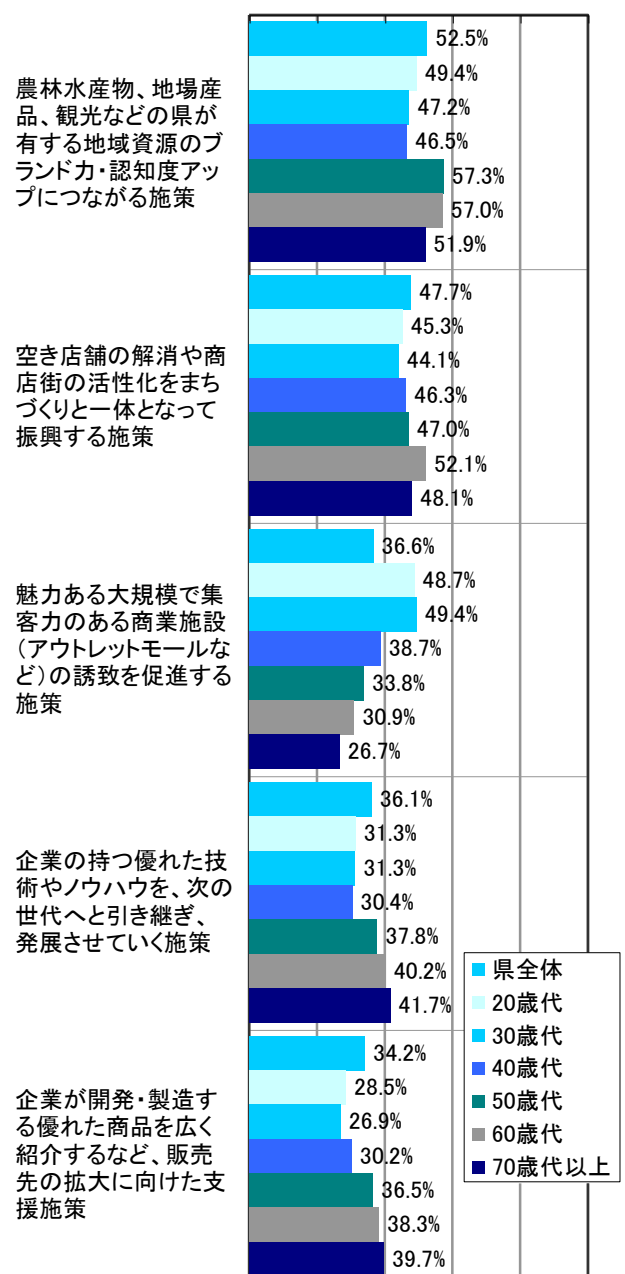
(問21 複数回答 県全体の上位5項目を掲載)

- 今後期待する県内産業・経済活性化に向けた「産業興し」の取組についてみると、「農林水産物、地場産品、観光などの県が有する地域資源のブランド力・認知度アップにつながる施策」(52.5%)が最も多く、次いで「空き店舗の解消や商店街の活性化をまちづくりと一体となって振興する施策」(47.7%)、「魅力ある大規模で集客力のある商業施設(アウトレットモールなど)の誘致を促進する施策」(36.6%)、「企業の持つ優れた技術やノウハウを、次の世代へと引き継ぎ、発展させていく施策」(36.1%)、「企業が開発・製造する優れた商品を広く紹介するなど、販売先の拡大に向けた支援施策」(34.2%)となっています。
- 「農林水産物、地場産品、観光などの県が有する地域資源のブランド力・認知度アップにつながる施策」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「空き店舗の解消や商店街の活性化をまちづくりと一体となって振興する施策」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「魅力ある大規模で集客力のある商業施設(アウトレットモールなど)の誘致を促進する施策」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』が最も多く、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「企業の持つ優れた技術やノウハウを、次の世代へと引き継ぎ、発展させていく施策」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「企業が開発・製造する優れた商品を広く紹介するなど、販売先の拡大に向けた支援施策」と答えた人については、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。

地域別 0% 20% 40% 60% 80% 100%



年齢別 0% 20% 40% 60% 80% 100%

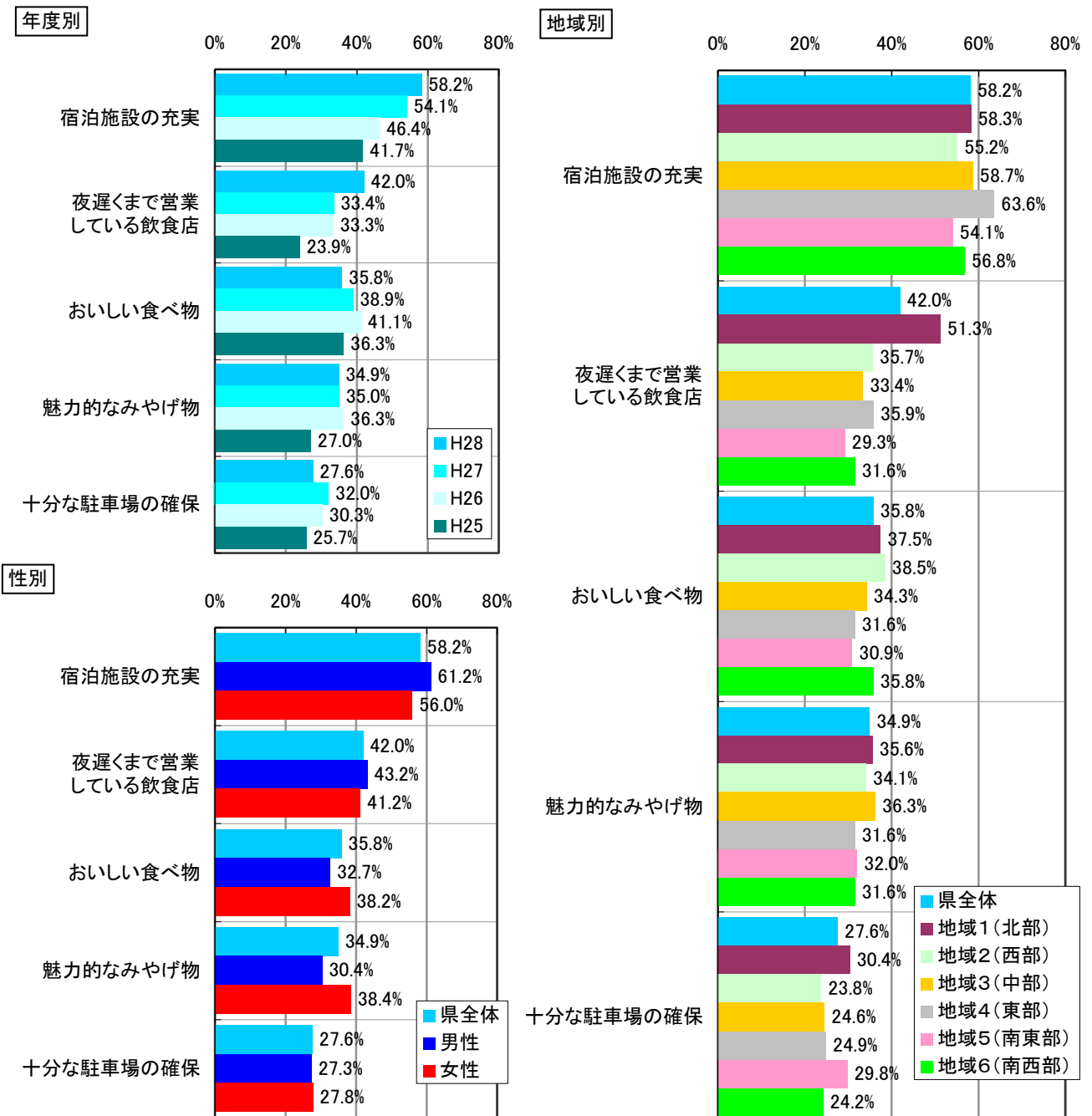


V 観光振興について

(1) 奈良県の観光・レクリエーションに足りないと感じるもの

(問24 4つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載)

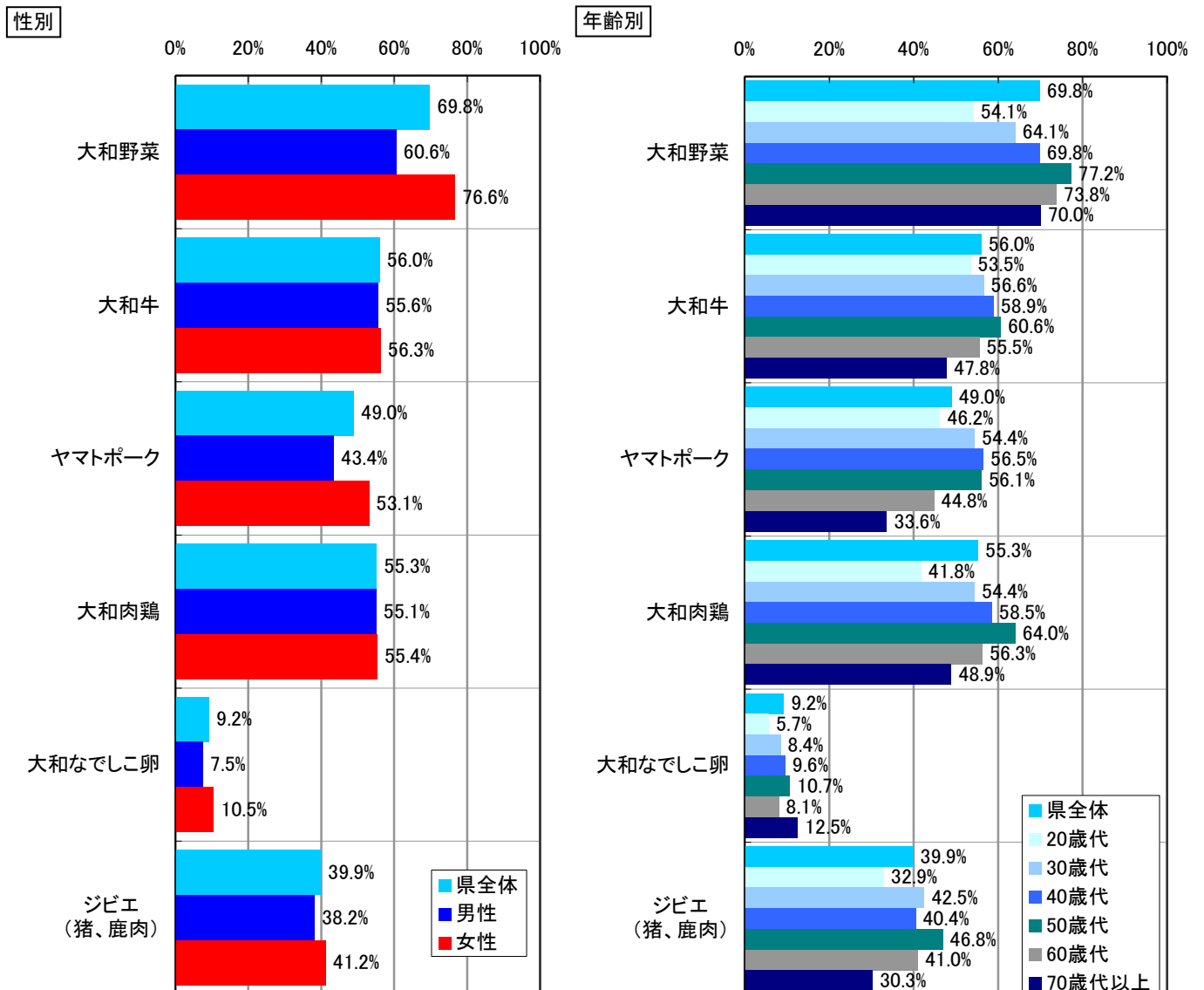
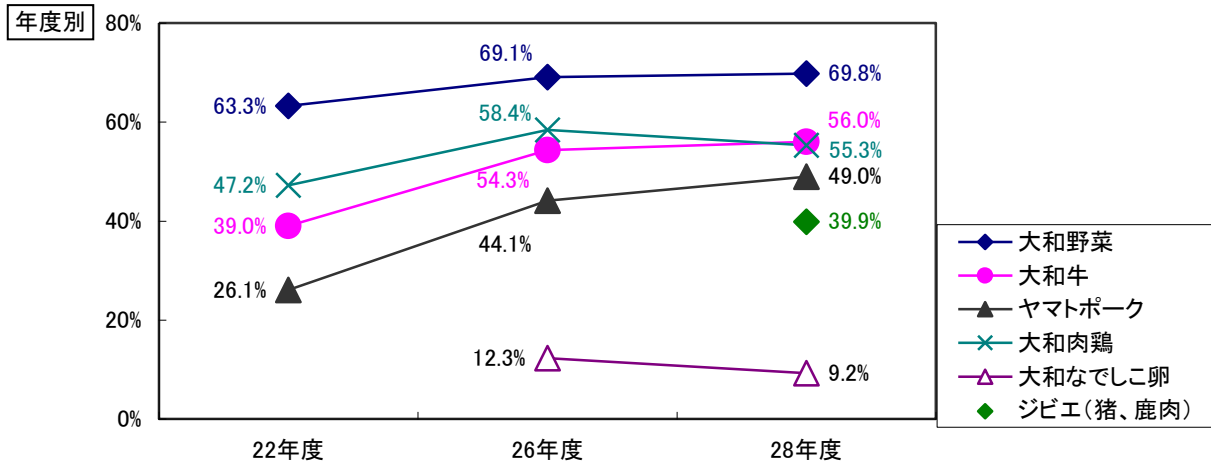
- 奈良県の観光・レクリエーションに足りないと感じるものについてたずねたところ、「宿泊施設の充実」(58.2%)が最も多く、次いで「夜遅くまで営業している飲食店」(42.0%)、「おいしい食べ物」(35.8%)、「魅力的なみやげ物」(34.9%)、「十分な駐車場の確保」(27.6%)となっています。
- 平成27年度、平成26年度と比較すると、「宿泊施設の充実」、「夜遅くまで営業している飲食店」が増加しています。
- 「宿泊施設の充実」と答えた人については、地域別では性別では『男性』が多く、『地域4(東部)]が最も多くなっています。
- 「夜遅くまで営業している飲食店」と答えた人については、性別では『男性』が多く、地域別では『地域1(北部)]が最も多くなっています。
- 「おいしい食べ物」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域2(西部)]が最も多くなっています。
- 「魅力的なみやげ物」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域3(中部)]が最も多くなっています。
- 「十分な駐車場の確保」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域1(北部)]が最も多くなっています。



VI 農林業の振興について

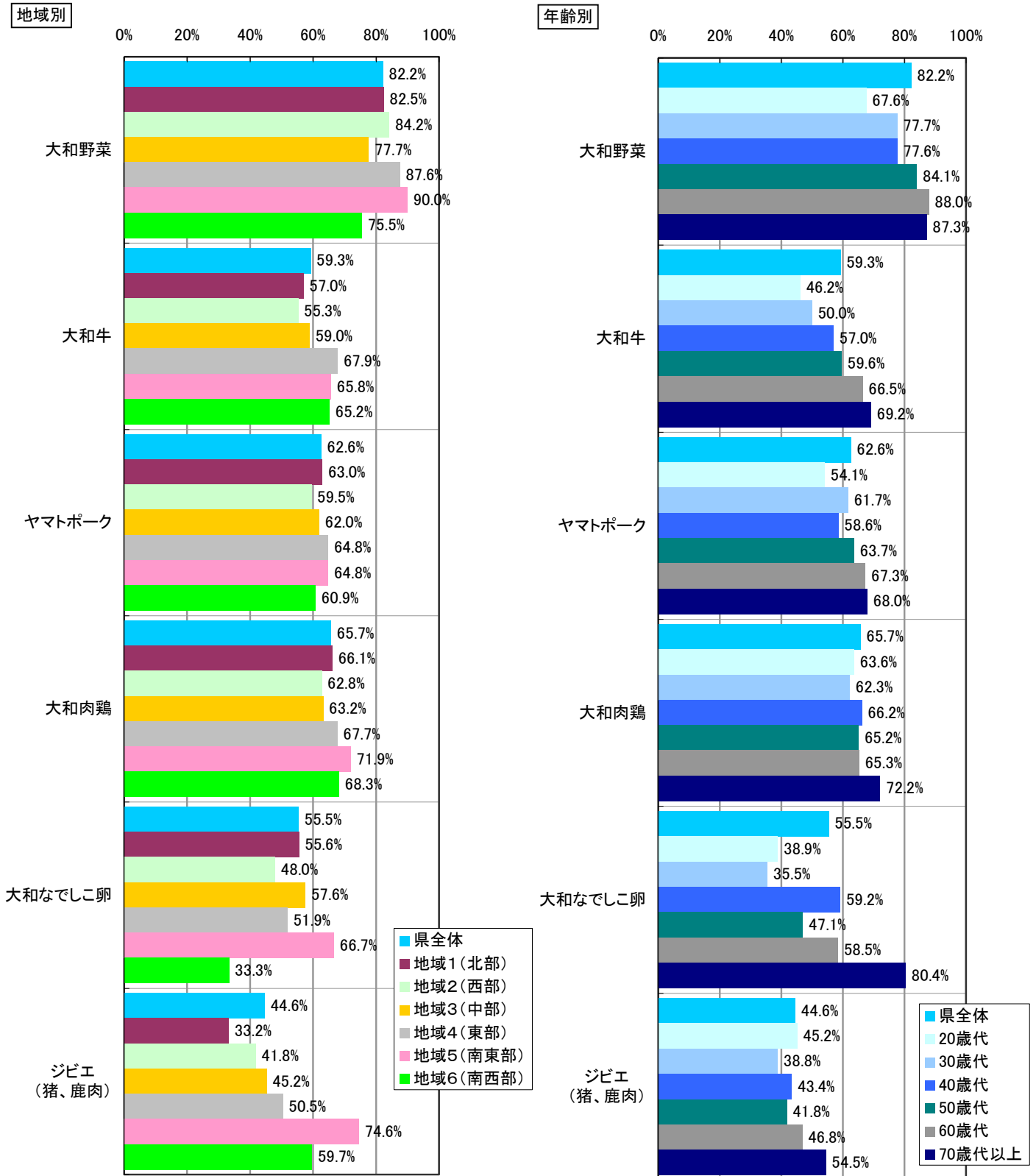
(1) 県内産食材の認知度 (問25)

■ 県内産食材の認知度については、「大和野菜」(69.8%)が最も高く、次いで「大和牛」(56.0%)、「大和肉鶏」(55.3%)、「ヤマトポーク」(49.0%)、「ジビエ(猪、鹿肉)」(39.9%)、「大和なでしこ卵」(9.2%)となっています。
 ■ 平成26年度と比較すると、「大和野菜」、「大和牛」、「ヤマトポーク」の認知度は増加しています。一方で、「大和肉鶏」、「大和なでしこ卵」の認知度は減少しています。
 ■ 性別にみると、すべての県内産ブランド食材の認知度は、『男性』よりも『女性』のほうが高くなっています。
 ■ 年齢別にみると、県内産ブランド食材の認知度は、「大和野菜」、「大和牛」、「大和肉鶏」、「ジビエ(猪、鹿肉)」では『50歳代』、「ヤマトポーク」では『40歳代』、「大和なでしこ卵」では『70歳代以上』が最も高くなっています。



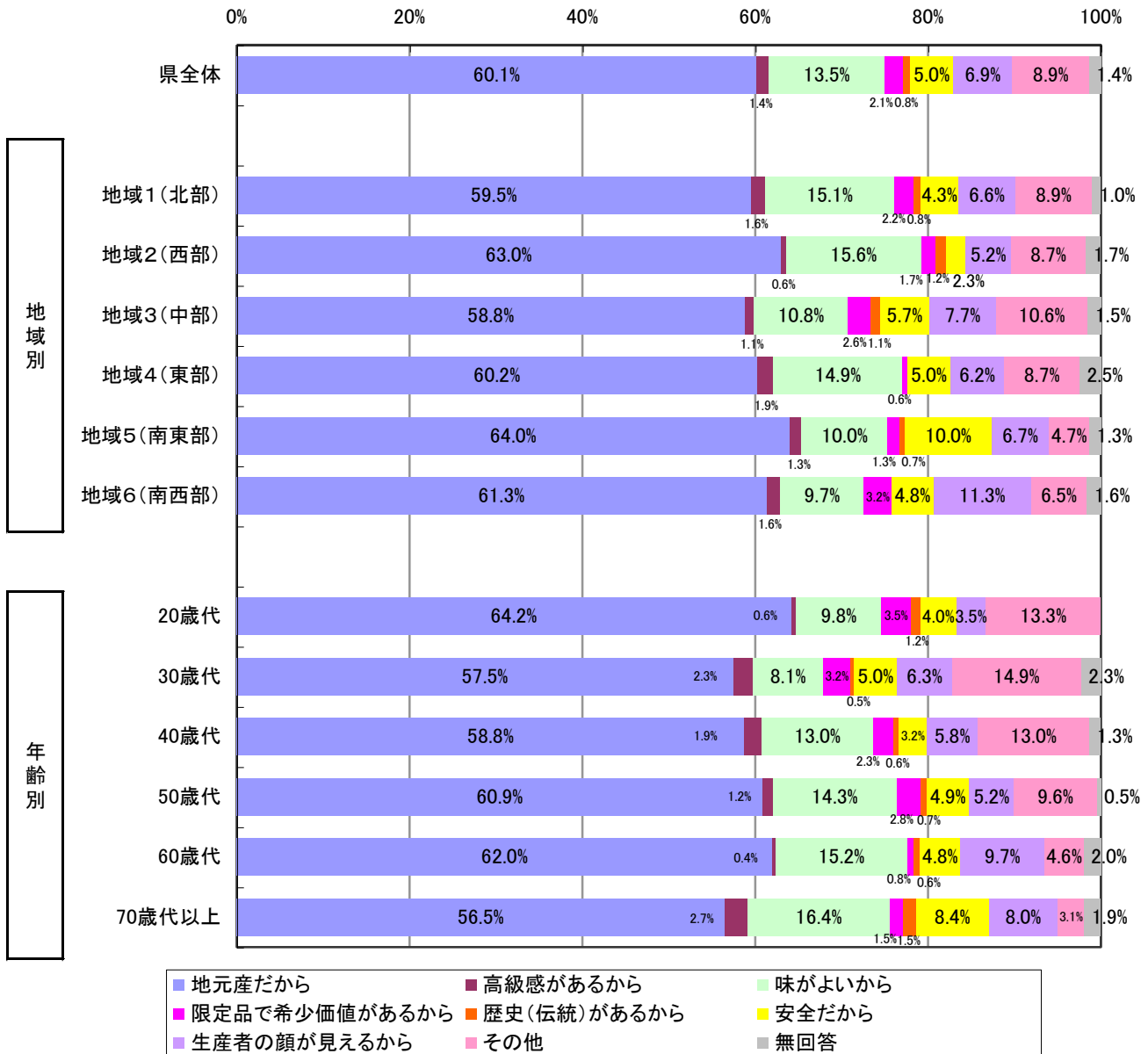
(2) 県内産食材の県内での購入又は飲食の有無 (問26)

- 県内産食材を「購入又は飲食をしたことがある」と答えた人については、「大和野菜」(82.2%) が最も多く、次いで「大和肉鶏」(65.7%)、「ヤマトポーク」(62.6%)、「大和牛」(59.3%)、「大和なでしこ卵」(55.5%)、「ジビエ(猪、鹿肉)」(44.6%) となっています。
- 地域別にみると、県内産食材を「購入又は飲食をしたことがある」と答えた人については、「ヤマトポーク」は『地域4(東部)』と『地域5(南東部)』が最も多くなっています。「大和野菜」、「大和肉鶏」、「大和なでしこ卵」、「ジビエ(猪、鹿肉)」は『地域5(南東部)』が、「大和牛」は『地域4(東部)』が最も多くなっています。
- 年齢別にみると、県内産食材を「購入又は飲食をしたことがある」と答えた人については、「大和野菜」を除いて『70歳代以上』で最も多くなっています。「大和野菜」は『60歳代』で最も多く、次いで『70歳代以上』となっています。



(3) 県内産食材を購入又は飲食をした理由（問27）

- 県内産食材を購入又は飲食をした理由についてみると、「地元産だから」（60.1%）が最も多く、次いで「味がよいから」（13.5%）、「生産者の顔が見えるから」（6.9%）となっています。
- 「地元産だから」と答えた人については、地域別では『地域5（南東部）』が最も多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「味がよいから」と答えた人については、地域別では『地域2（西部）』が最も多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「生産者の顔が見えるから」と答えた人については、地域別では『地域6（南西部）』が最も多く、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。



Ⅶ 健康づくりの推進について

(1) この1年間に自らの健康づくりのためにしたこと

(問29-① 複数回答 県全体の上位5項目を掲載)

- この1年間に自らの健康づくりのためにしたことは、「野菜を食べるように心がける」(県全体 73.7%) が最も多く、次いで「たばこを吸わない」(58.5%) となっています。
- 性別にみると、「野菜を食べるように心がける」、「栄養バランスの良い食事に心がける」、「虫歯や歯周病予防に心がける」については、『女性』の方が『男性』より10ポイント以上多くなっています。
- 年齢別にみると、「野菜を食べるように心がける」は『50歳代』が最も多く、「たばこを吸わない」は、『20歳代』最も多くなっています。

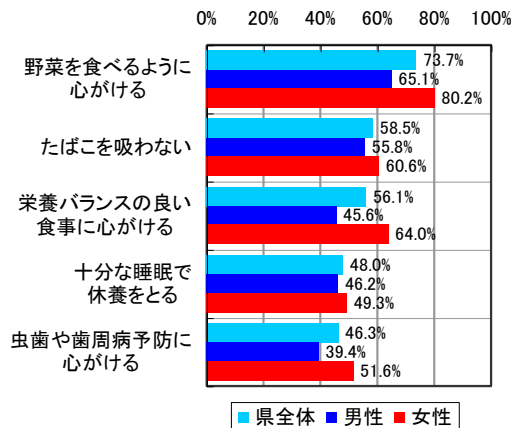
(2) 今後、どのような健康づくりをしたいか

(問29-② 3つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載)

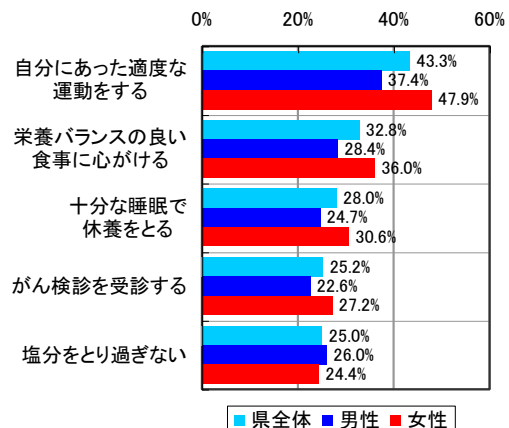
- 今後、どのような健康づくりをしたいかは、「自分にあった適度な運動をする」(43.3%) が最も多く、次いで「栄養バランスの良い食事に心がける」(32.8%) となっています。
- 性別にみると、「自分にあった適度な運動をする」については、『女性』の方が『男性』より10ポイント以上多くなっています。
- 年齢別にみると、すべての年代で「自分にあった適度な運動をする」が最も多くなっています。次いで『20歳代』『40歳代』では「十分な睡眠で休養をとる」、他の年代では「栄養バランスの良い食事に心がける」となっています。

性別

《①この1年間にした健康づくり》

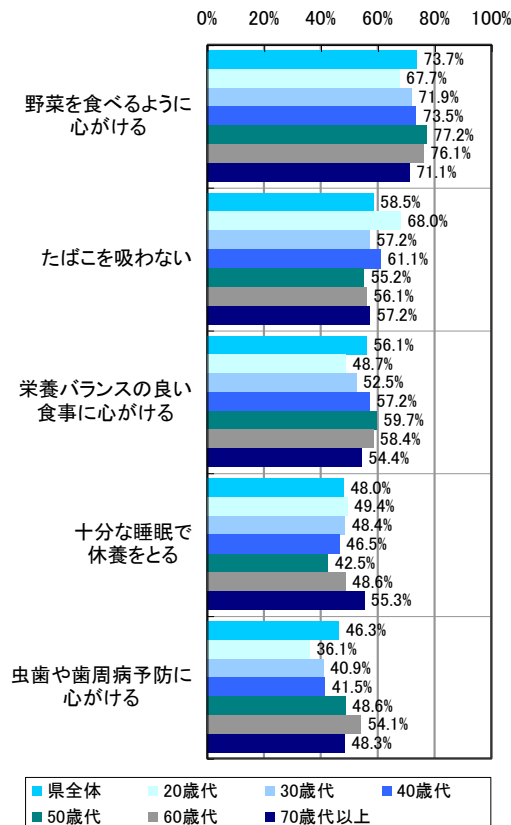


《②今後したい健康づくり》

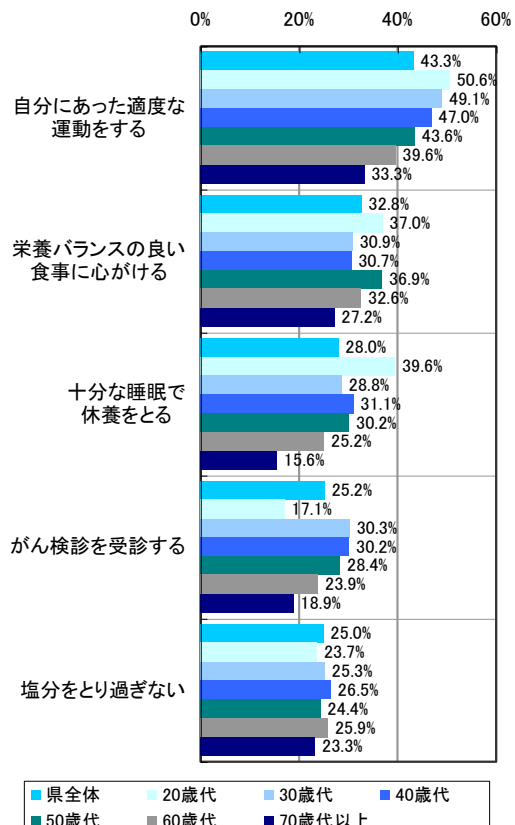


年齢別

《①この1年間にした健康づくり》



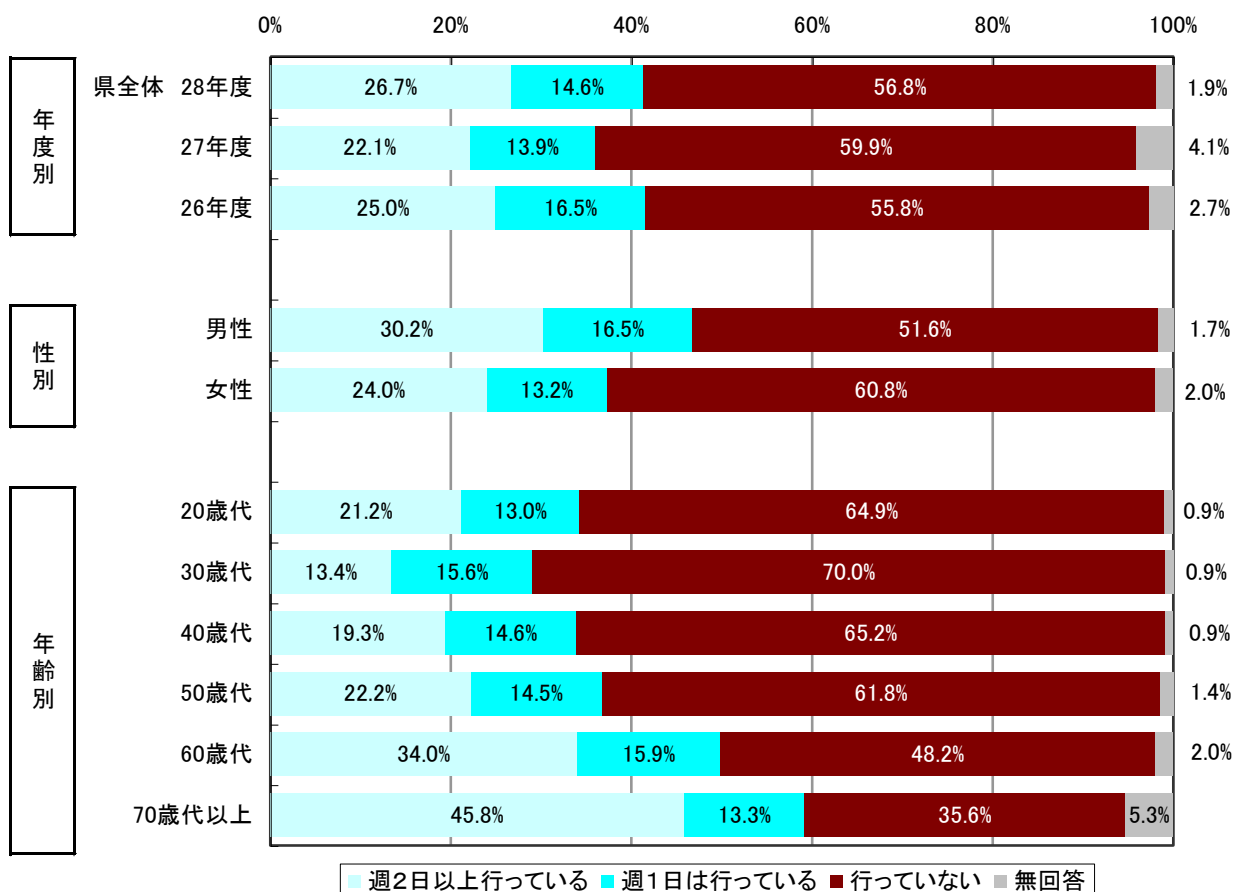
《②今後したい健康づくり》



Ⅷ スポーツ振興について

(1) 過去1年以上、継続して30分以上の運動の頻度（問30）

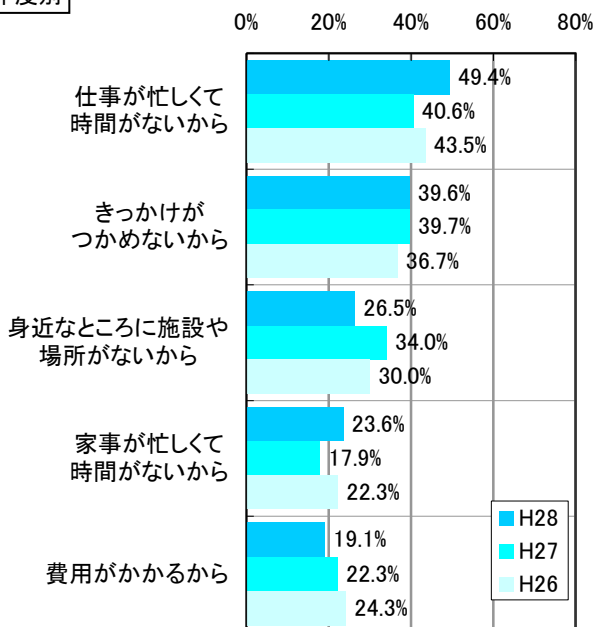
- 過去1年以上、継続して30分以上の運動頻度は、「行っていない」(56.8%)が「行っている」(「週2日以上行っている」+「週1日は行っている」)(41.3%)に比べて多くなっています。
- 平成27年度と比較すると、「行っている」と答えた人は5.3ポイント増加しています。一方で、「行っていない」と答えた人は3.1ポイント減少しています。
- 性別にみると、「行っている」と答えた人は、『男性』(46.8%)の方が『女性』(37.3%)よりも9.5ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「行っている」と答えた人は、『70歳代以上』が最も多く約6割、次いで『60歳代』では約5割となっています。一方で、50歳代以下では約3～4割と、60歳代以上に比べて少なくなっています。



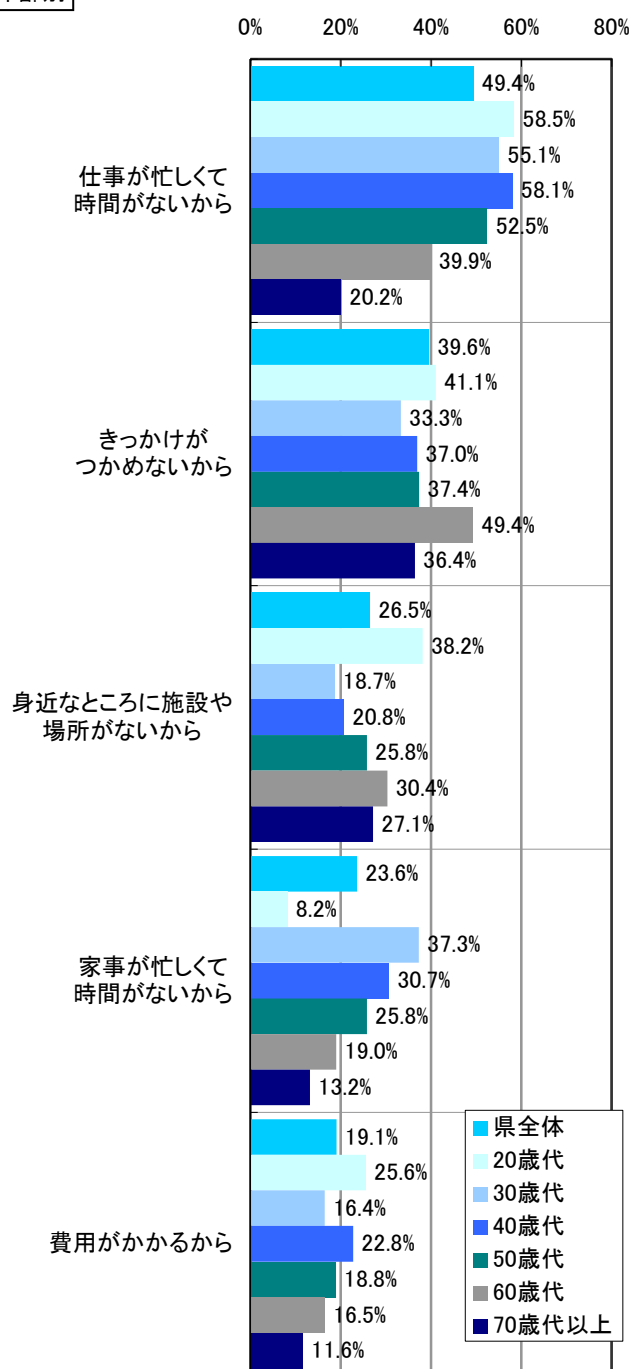
(2) 過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない人の理由（問32 3つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載）

- 過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない人の理由をたずねたところ、「仕事が忙しくて時間がないから」（49.4%）が最も多く、次いで「きっかけがつかめないから」（39.6%）、「身近なところに施設や場所がないから」（26.5%）、「家事が忙しくて時間がないから」（23.6%）、「費用がかかるから」（19.1%）となっています。
- 平成27年度と比較すると、「仕事が忙しくて時間がないから」（8.8ポイント増）、「家事が忙しくて時間がないから」（5.7ポイント増）という理由が増加しています。
- 「仕事が忙しくて時間がないから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「きっかけがつかめないから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「身近なところに施設や場所がないから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「家事が忙しくて時間がないから」と答えた人は、性別では『女性』が多く、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「費用がかかるから」と答えた人は、性別では『女性』が多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。

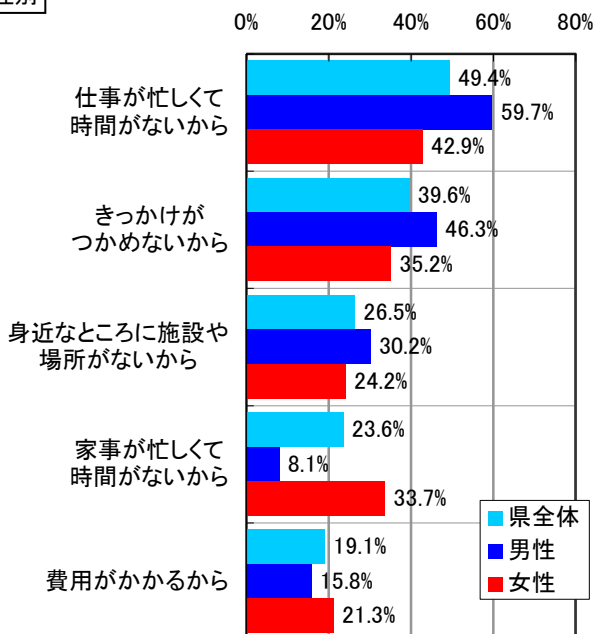
年度別



年齢別



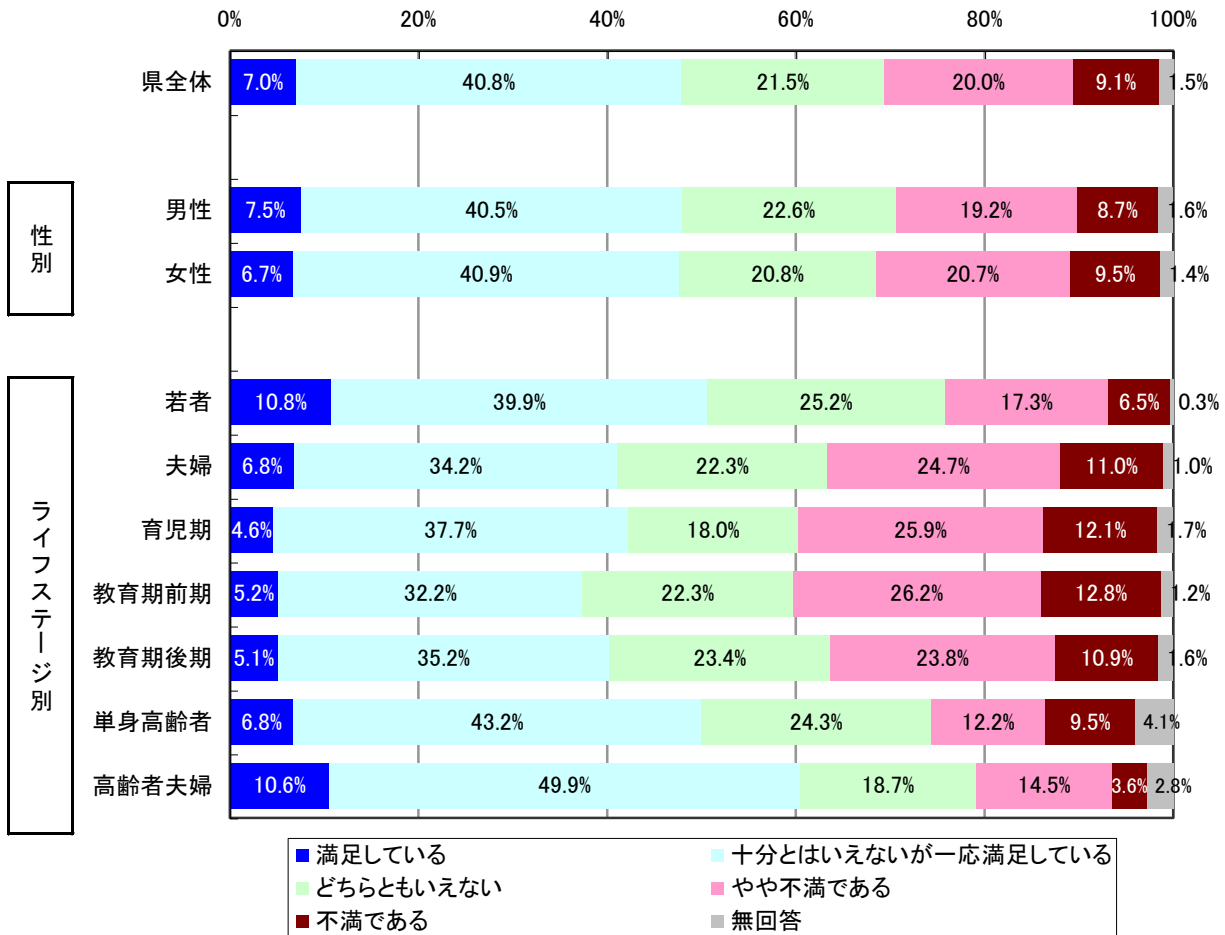
性別



Ⅷ 医療の充実について

(1) 奈良県の医療環境への満足度（問33）

- 奈良県の医療環境への満足度については、「満足している」（「満足している」＋「十分とはいえないが一応満足している」）と感じている人が47.9%、「満足していない」（「やや不満である」＋「不満である」）と感じている人が29.1%となっています。
- 性別にみると、「満足している」と感じている人は、『男性』（48.0%）と『女性』（47.7%）でほぼ等しくなっています。
- ライフステージ別にみると、「満足している」と感じている人は、『高齢者夫婦』（60.4%）が最も多く、次いで『若者』（50.7%）となっています。

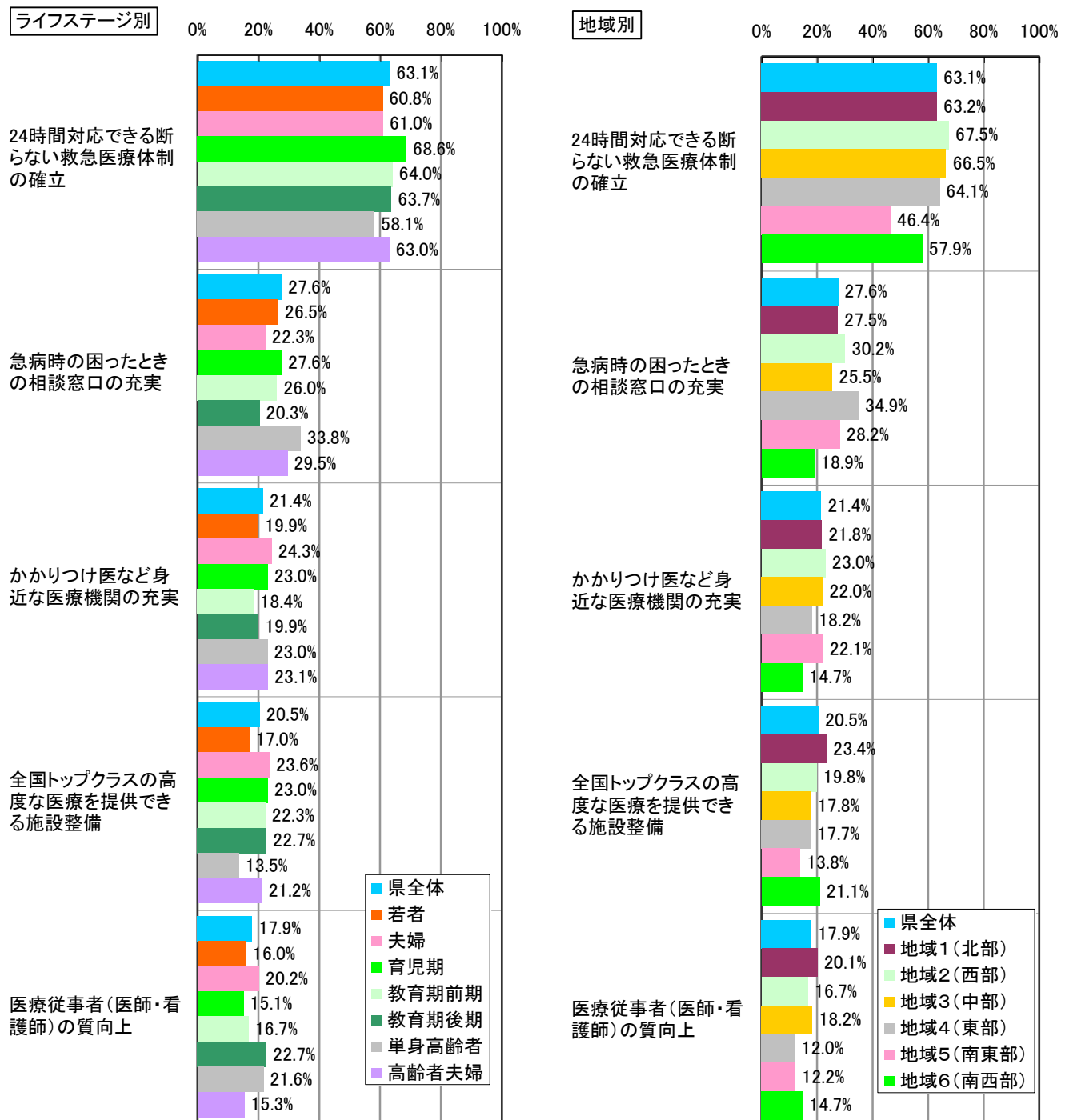


※本文内の統計数値は、四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない。

(2) 医療環境向上のために、今後重点的に取り組んで欲しいこと

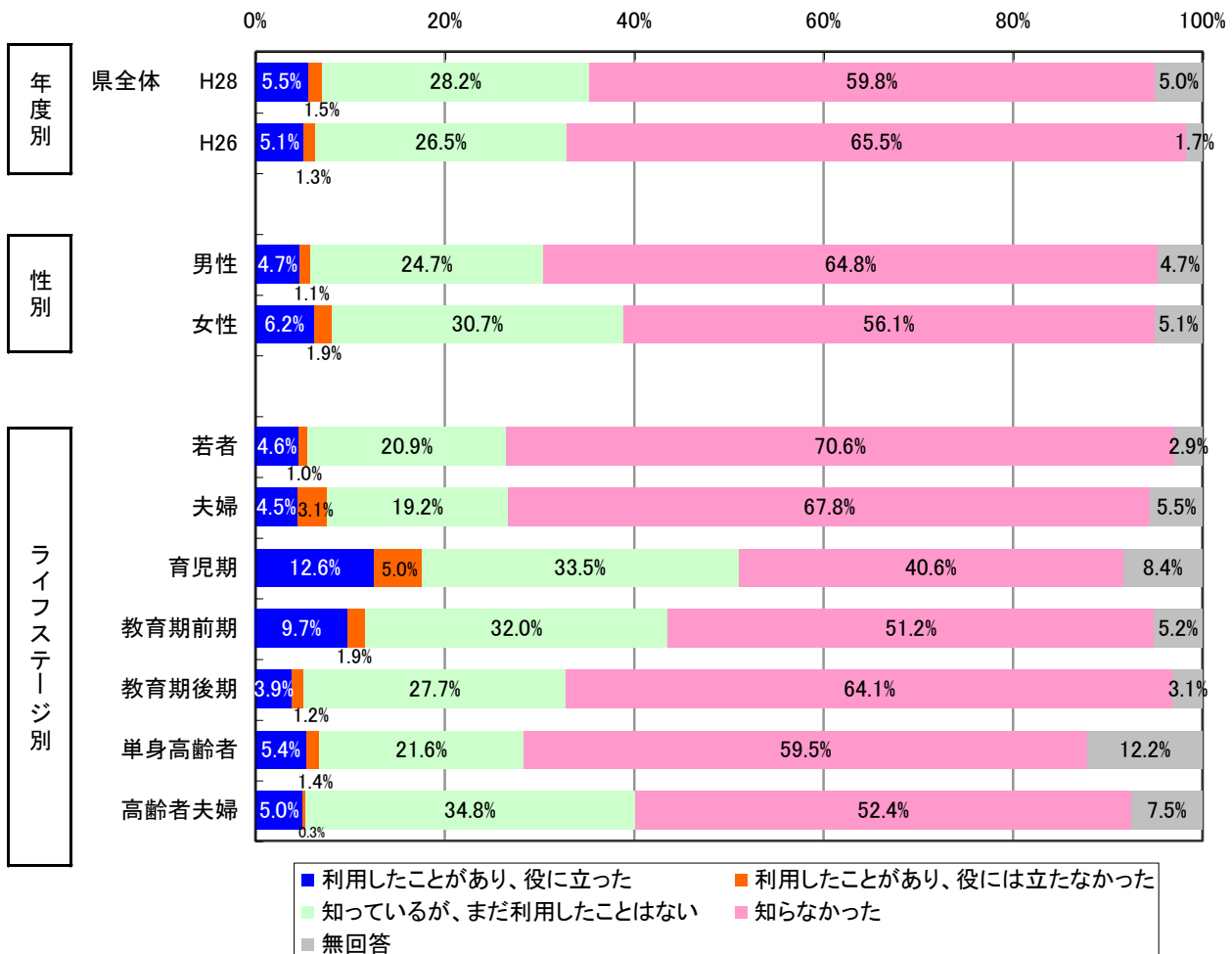
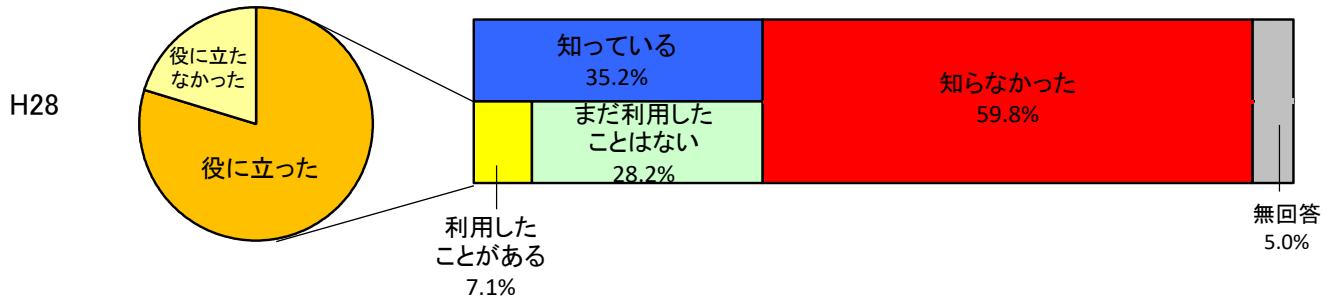
(問34 2つ以内で複数回答 県全体の上位5項目を掲載)

- 医療環境向上のために、今後重点的に取り組んでほしいことについてたずねたところ、「24 時間対応できる断らない救急医療体制の確立」(63.1%) が最も多く、次いで「急病時の困ったときの相談窓口の充実」(27.6%)、「かかりつけ医など身近な医療機関の充実」(21.4%)、「全国トップクラスの高度な医療を提供できる施設整備」(20.5%)、「医療従事者(医師・看護師)の質の向上」(17.9%)となっています。
- 「24 時間対応できる断らない救急医療体制の確立」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、地域別では『地域2(西部)』が最も多くなっています。
- 「急病時の困ったときの相談窓口の充実」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、地域別では『地域4(東部)』が最も多くなっています。
- 「かかりつけ医など身近な医療機関の充実」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、地域別では『地域2(西部)』が最も多くなっています。
- 「全国トップクラスの高度な医療を提供できる施設整備」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。
- 「医療従事者(医師・看護師)の質の向上」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。

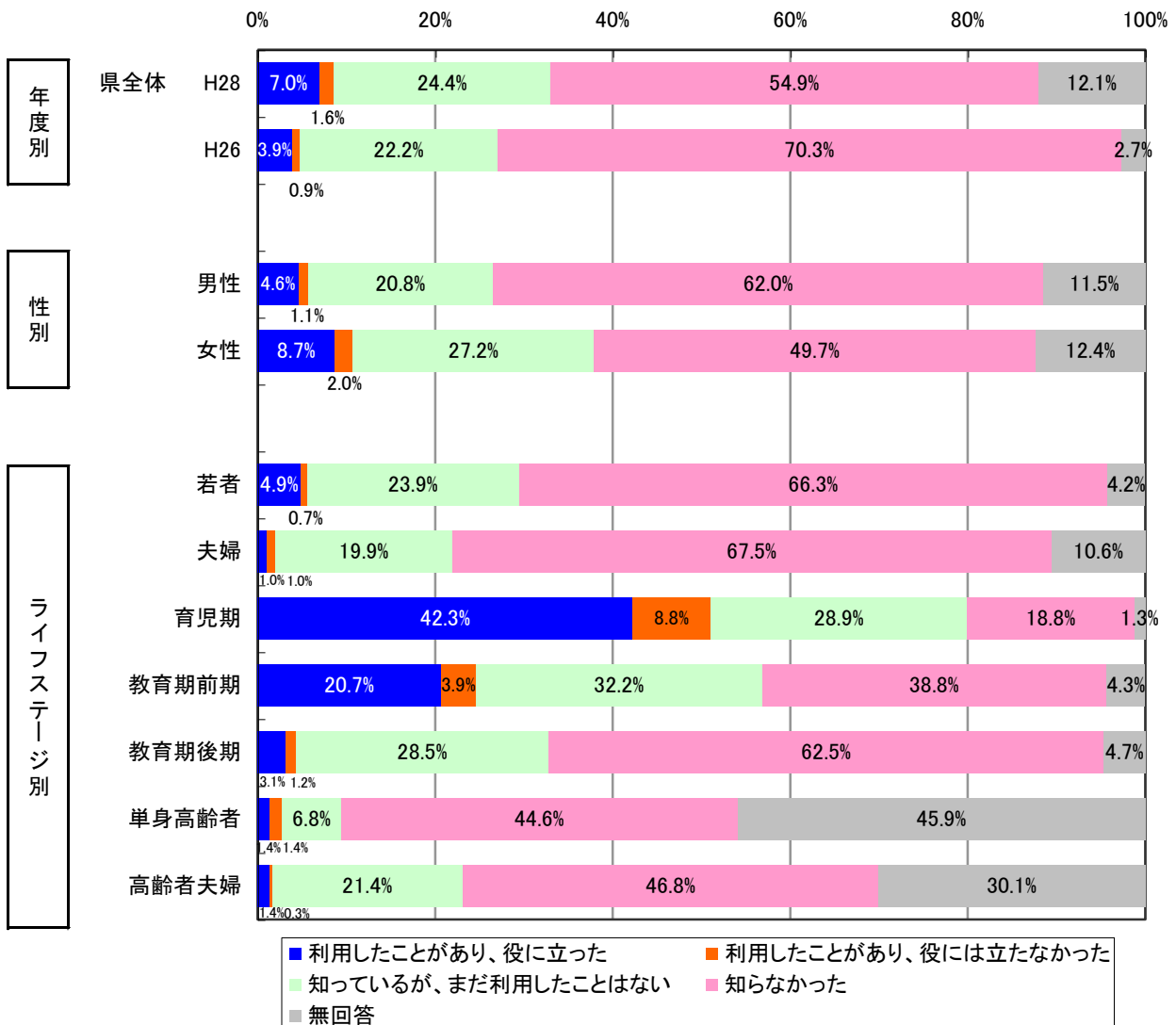
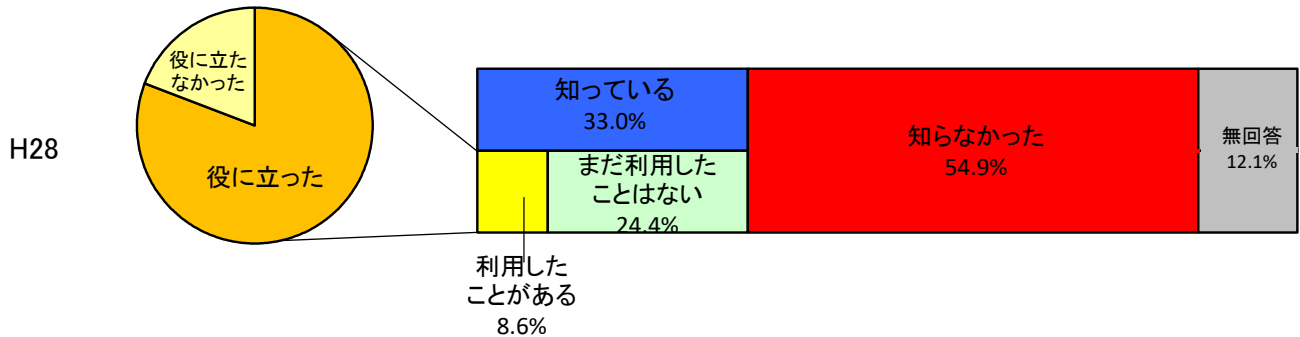


(3) 「奈良県救急安心センター相談ダイヤル」、「こども救急電話相談」の認知度と利用状況（問36）

- 奈良県救急安心センター相談ダイヤル（#7119）の認知度については、「知らなかった」（59.8%）が「知っている」（「利用したことがある、役に立った」＋「利用したことがある、役に立たなかった」＋「知っているが、まだ利用したことがない」）（35.2%）より多くなっています。また、「利用したことがある」と答えた人のなかで「役に立った」と感じている人は約80%となっています。
- 平成26年度と比較すると、「知っている」が2.3ポイント増加しています。
- 性別にみると、「知っている」と答えた人は、『女性』が『男性』に比べて多くなっています。
- ライフステージ別にみると、「知っている」と答えた人は『育児期』が最も多く、次いで『教育期前期』となっています。



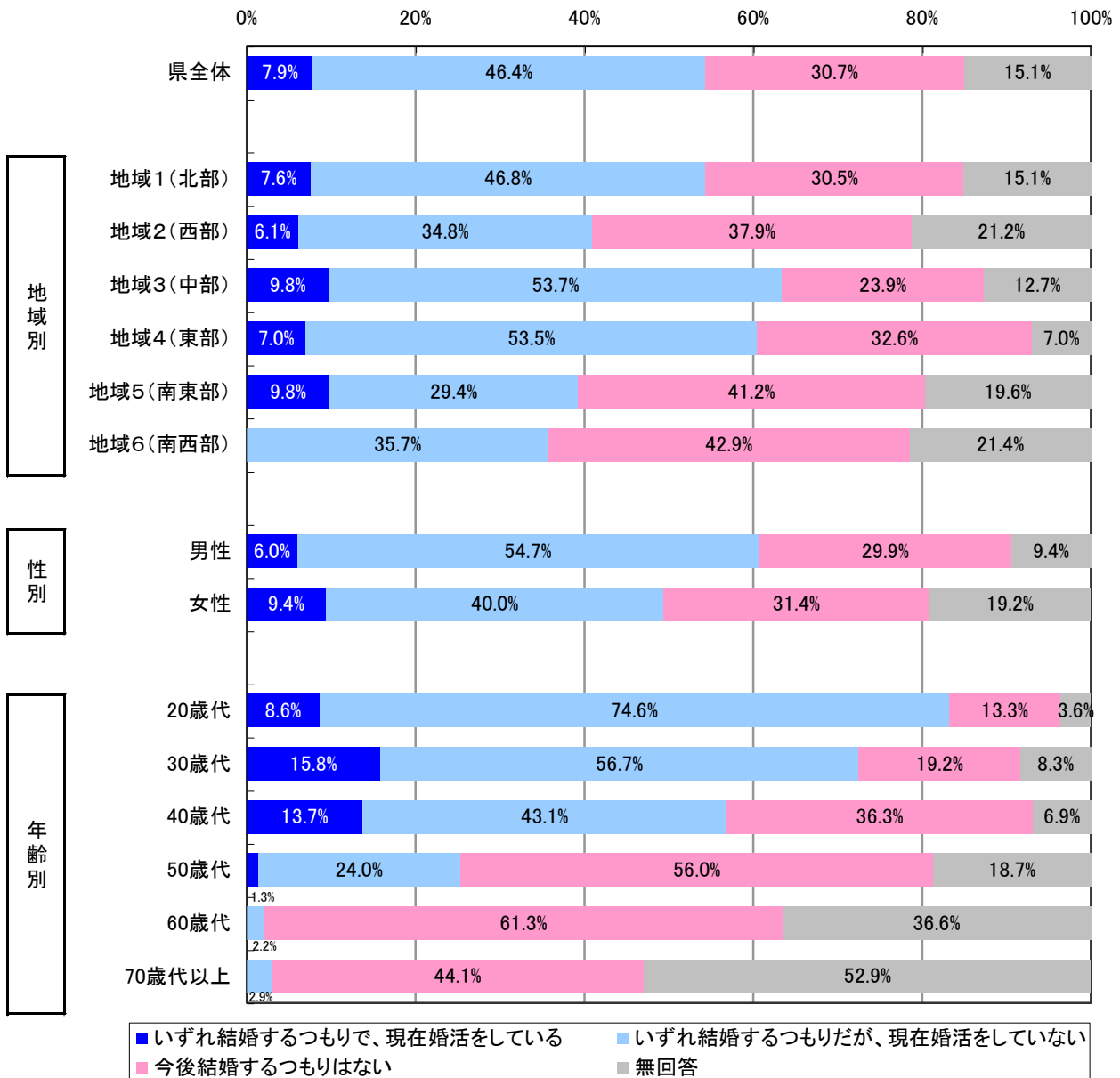
■ 子育て救急電話相談（#8000）の認知度については、「知らなかった」（54.9%）が「知っている」（「利用したことがある、役に立った」+「利用したことがある、役に立たなかった」+「知っているが、まだ利用したことがない」）（33.0%）より多くなっています。また、「利用したことがある」と答えた人のなかで約80%が「役に立った」と感じています。
 ■ 平成26年度と比較すると、「知っている」が6.0ポイント増加しています。
 ■ 性別にみると、「知っている」と答えた人は、『女性』が『男性』に比べて多くなっています。
 ■ ライフステージ別にみると、「知っている」と答えた人は『育児期』が最も多く、次いで『教育期前期』となっています。



X 子育て支援・結婚について

(1) 未婚または離別・死別により現在配偶者がいない方の、結婚に対する考えと、今後の婚活の有無 (問38)

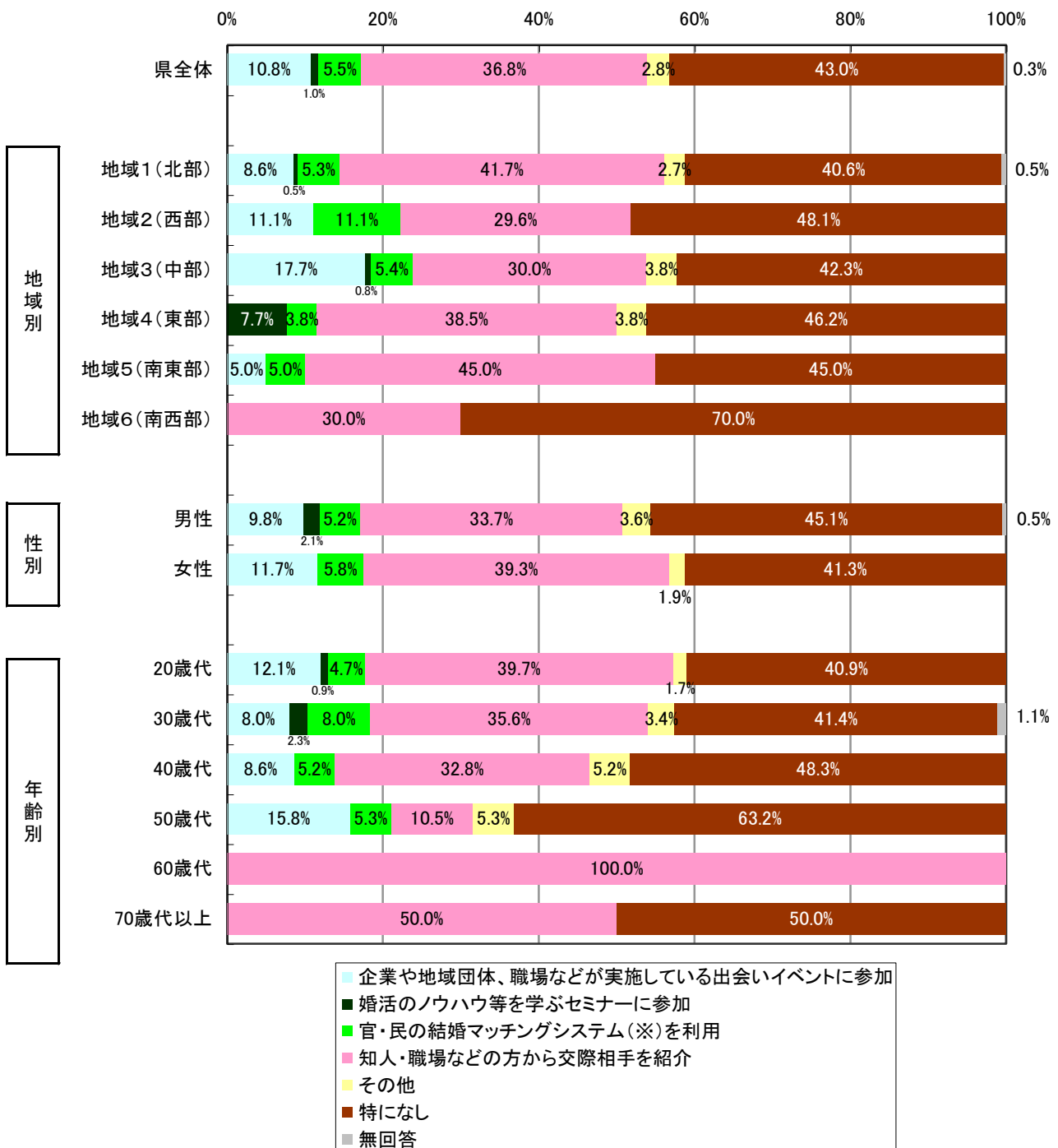
- 未婚または離別・死別により現在配偶者がいない方の、結婚に対する考えと、今後の婚活の有無をみると、「いずれ結婚するつもり」(「いずれ結婚するつもりで、現在婚活をしている」+「いずれ結婚するつもりだが、現在婚活をしていない」)の人が54.3%で、「今後結婚するつもりはない」人が30.7%となっています。
- 地域別にみると、「いずれ結婚するつもり」は『地域3(中部)』(63.4%)で最も多く、『地域6(南西部)』(35.7%)で最も少なくなっています。
- 性別にみると、「いずれ結婚するつもり」は『男性』では60.7%、『女性』では49.4%となっています。
- 年齢別にみると、「いずれ結婚するつもり」は『20歳代』(83.2%)で最も多く、『60歳代』(2.2%)で最も少なくなっています。



※本文内の統計数値は、四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない。

(2) 「いずれ結婚するつもり」の方が、どのような婚活をしているか、又は、したいと思うか (問39)

- 「いずれ結婚するつもり」と答えた人の婚活の状況を見ると、「特になし」(43.0%)が最も多く、次いで「知人・職場などの方から交際相手を紹介」(36.8%)、「企業や地域団体、職場などが実施している出会いイベントに参加」(10.8%)となっています。
- 地域別にみると、「知人・職場などの方から交際相手を紹介」と答えた人は『地域5(南東部)』(45.0%)で最も多く、『地域2(西部)』(29.6%)で最も少なくなっています。また、「企業や地域団体、職場などが実施している出会いイベントに参加」と答えた人は『地域3(中部)』(17.7%)で最も多く、『地域4(東部)』、「地域6(南西部)」では0.0%となっています。
- 性別にみると、「知人・職場などの方から交際相手を紹介」と答えた人は『女性』(39.3%)が男性(33.7%)に比べて多くなっています。
- 年齢別にみると、件数の少ない60歳代以上を除いて、「知人・職場などの方から交際相手を紹介」と答えた人は『20歳代』(39.7%)が最も多くなっています。また、「企業や地域団体、職場などが実施している出会いイベントに参加」と答えた人は『50歳代』(15.8%)で最も多くなっています。

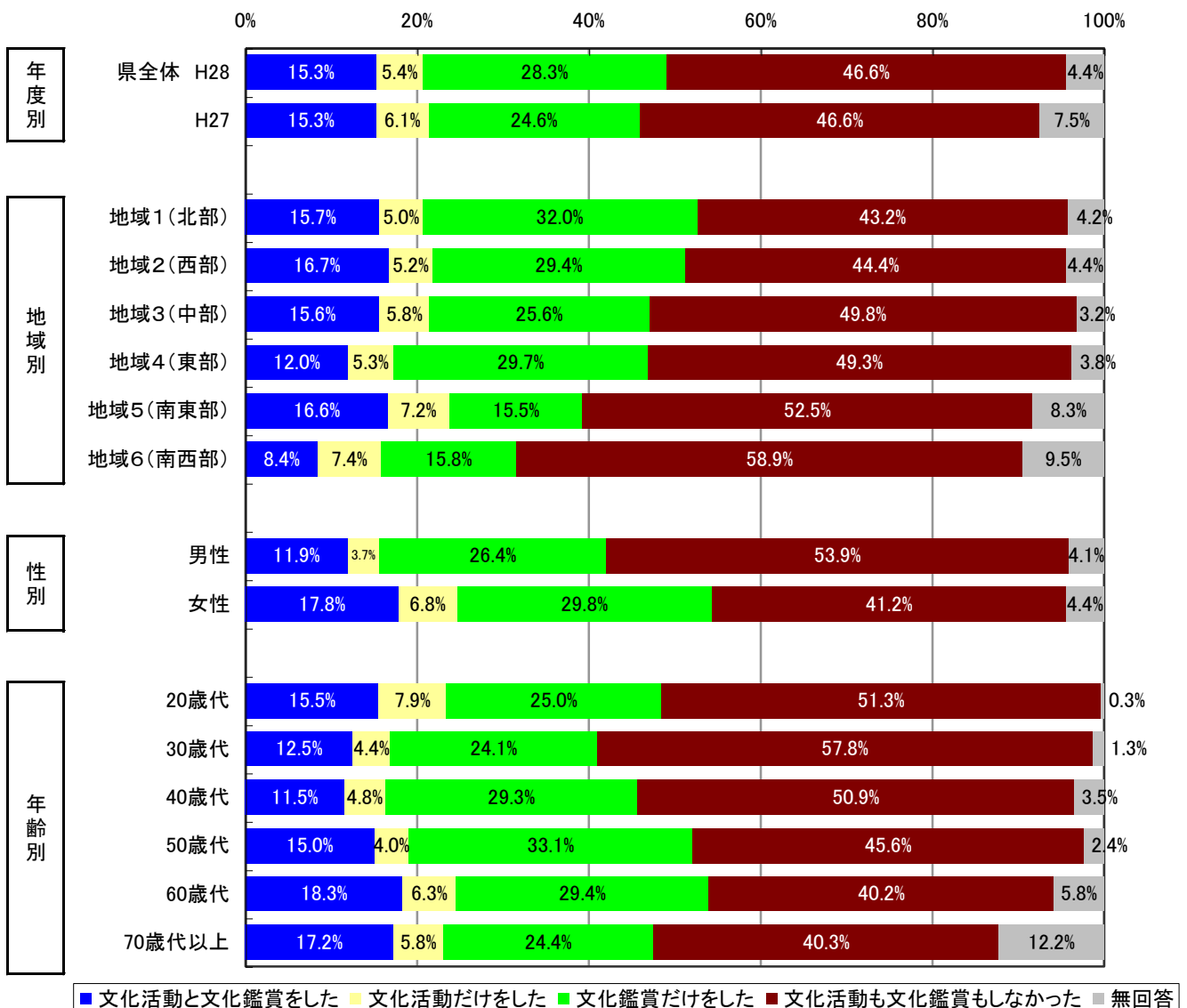


(※) 結婚マッチングシステムとは、結婚を希望される方をデータベース化して、お見合いなどを行うシステムのこと

XI 文化振興について

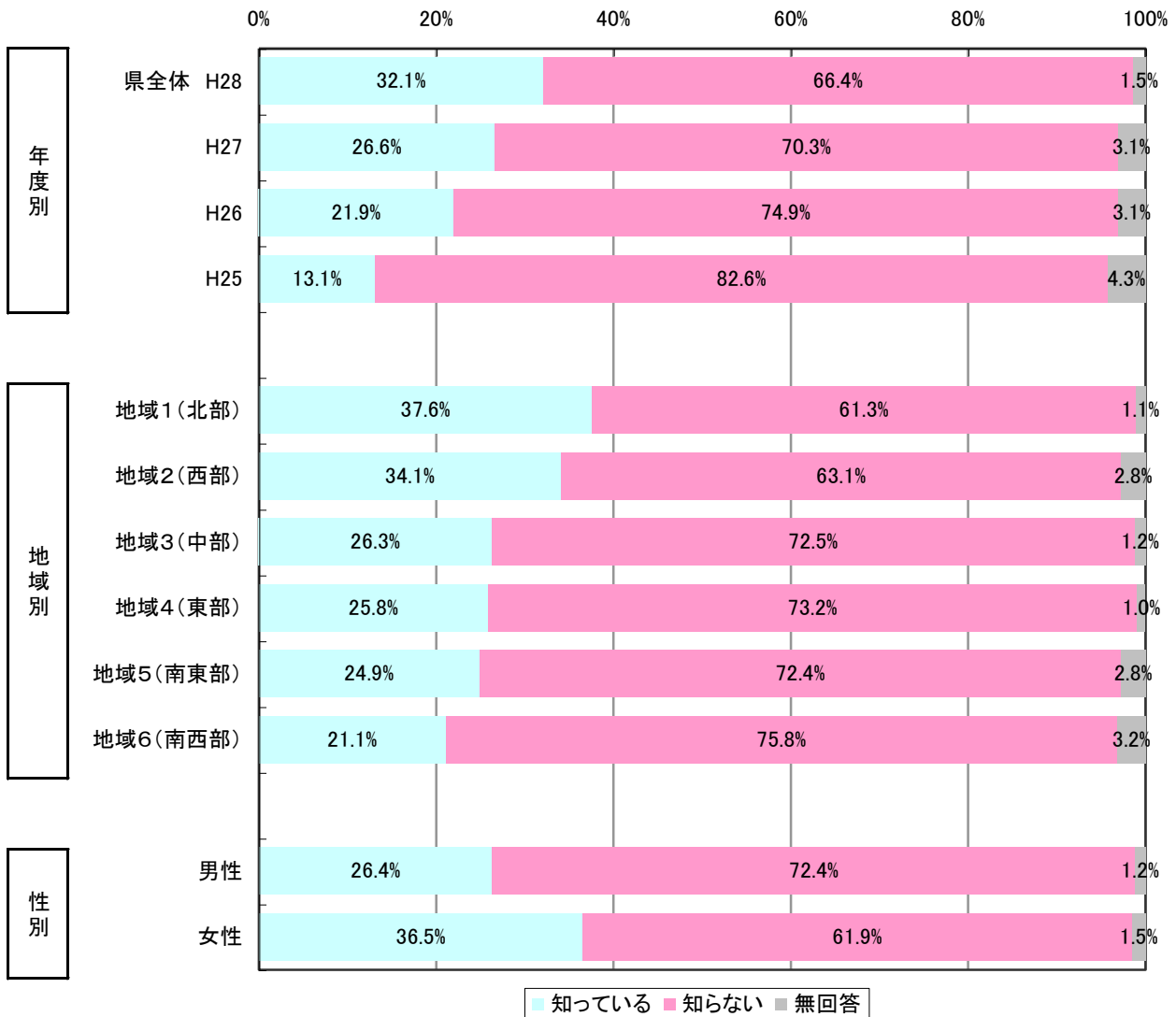
(1) この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無（問40）

- この1年間の芸術活動や芸術鑑賞の有無については、「文化活動も文化鑑賞もしなかった」（46.6%）が最も多く、次いで「文化鑑賞だけをした」（28.3%）となっています。
- 平成27年度と比較すると、「文化活動又は文化鑑賞をした」（「文化活動と文化鑑賞をした」＋「文化活動だけをした」＋「文化鑑賞だけをした」）人（49.0%）が3.1ポイント増加しています。
- 地域別に見ると、「文化活動又は文化鑑賞をした」人は『地域1（北部）』（52.6%）で最も多く、『地域6（南西部）』（31.6%）で最も少なくなっています。また、「文化活動も文化鑑賞もしなかった」人は『地域6（南西部）』（58.9%）で最も多くなっています。
- 性別に見ると、男女とも「文化活動も文化鑑賞もしなかった」（男性53.9%、女性41.2%）が最も多く、次いで「文化鑑賞だけをした」（男性26.4%、女性29.8%）となっています。
- 年齢別に見ると、すべての年代について「文化活動も文化鑑賞もしなかった」が最も多く、次いで「文化鑑賞だけをした」となっています。



(2) ムジークフェストならの認知度 (問41)

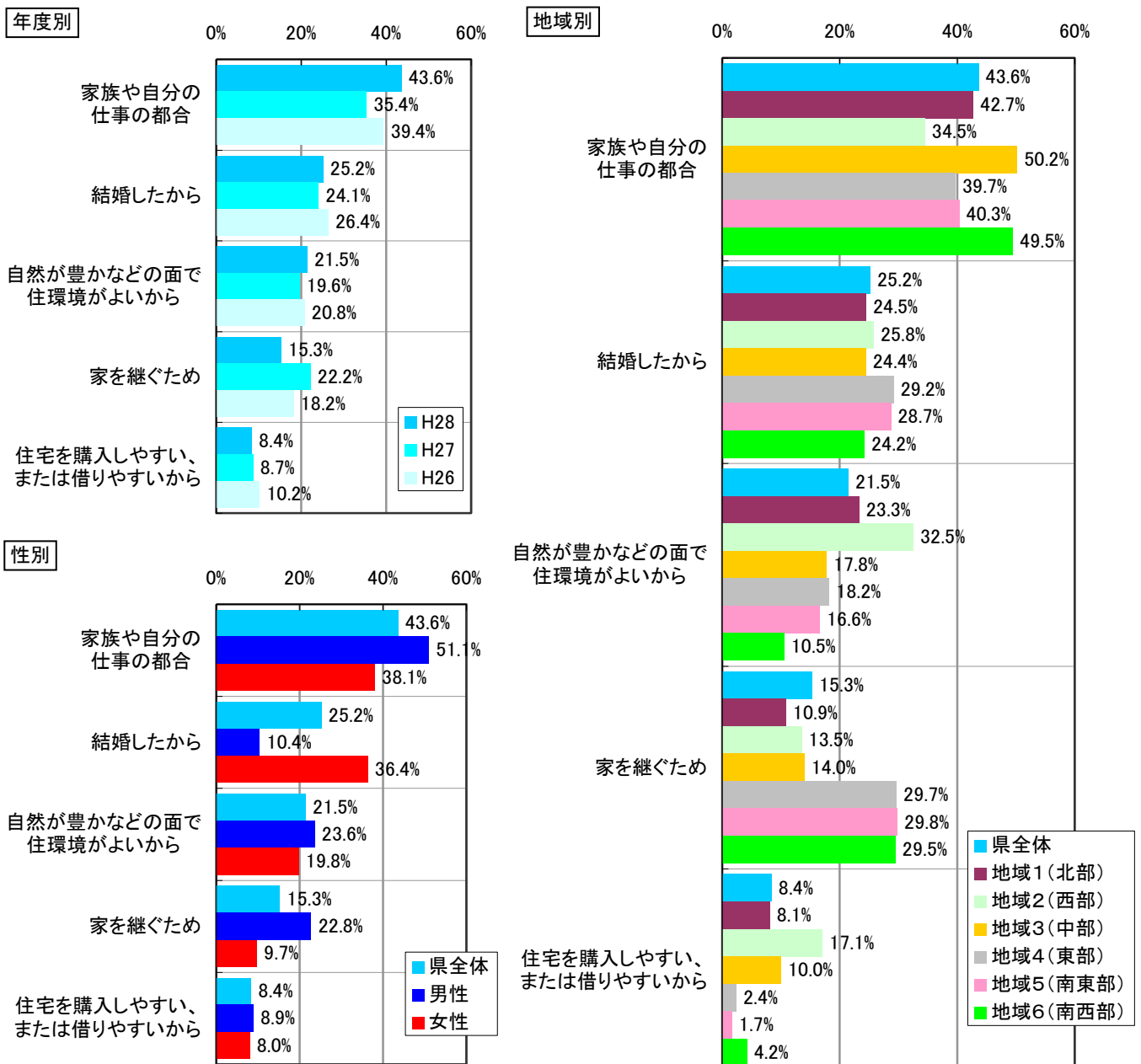
- ムジークフェストならの認知度については、「知らない」(66.4%)が「知っている」(32.1%)に比べて多くなっています。
- 「知っている」(32.1%)と答えた人は、年々増加傾向にあり、平成27年度(26.6%)に比べて5.5ポイント増加し、平成25年度(13.1%)に比べて約2.5倍に増加しています。
- 地域別に見ると、「知っている」と答えた人は『地域1(北部)』(37.6%)で最も多く、『地域6(南西部)』(21.1%)で最も少なくなっています。
- 性別にみると、「知っている」と答えた人は、『女性』(36.5%)が『男性』(26.4%)に比べて多くなっています。



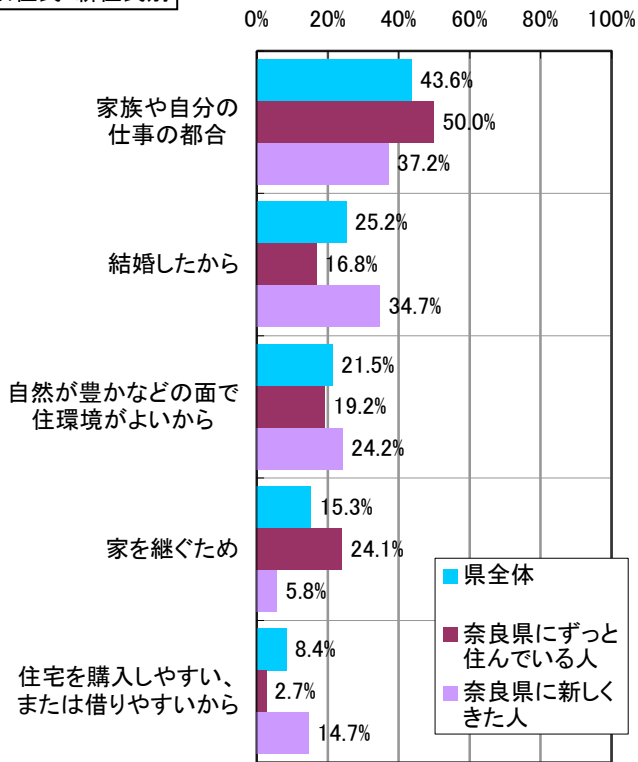
XII 回答者に関すること

(1) 奈良での居住理由（問50 2つ以内で複数回答 県全体の「その他」を除く上位5項目を掲載）

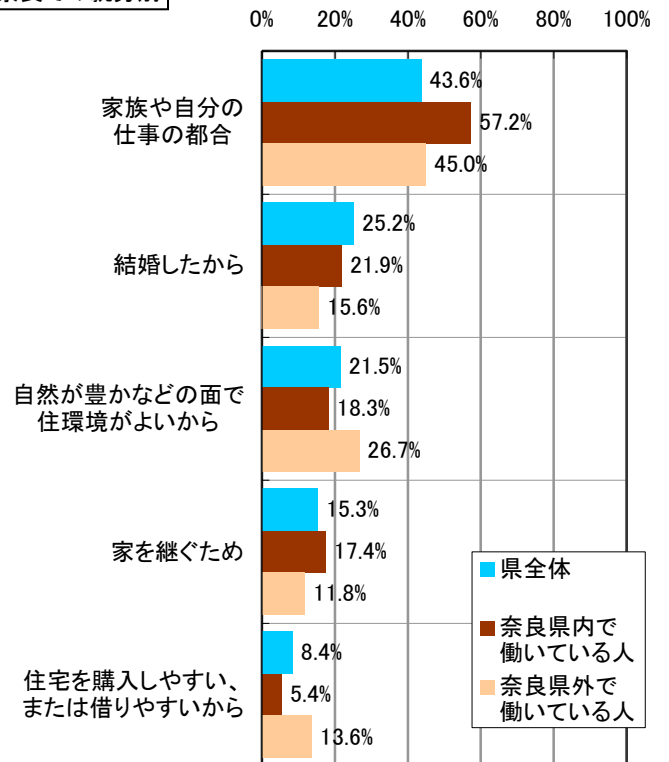
- 奈良での居住理由についてたずねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(43.6%)が最も多く、次いで「結婚したから」(25.2%)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(21.5%)、「家を継ぐため」(15.3%)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(8.4%)となっています。
- 平成27年度と比較すると、「家族や自分の仕事の都合」(43.6%)と答えた人は、8.2ポイント増加しています。
- 「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、地域別では『地域3(中部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



旧住民・新住民別



奈良での就労別



平成28年度
県民アンケート調査
概 要 版

平成28年11月

奈良県総務部知事公室統計課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 0742-27-8439
